東北電力

1987 12 NO. 329

特別企画 ―シリーズ― 電気事業新時代

Part 12

グラビア 『技術の東北電力』を担う

―総合研究所を訪ねて―



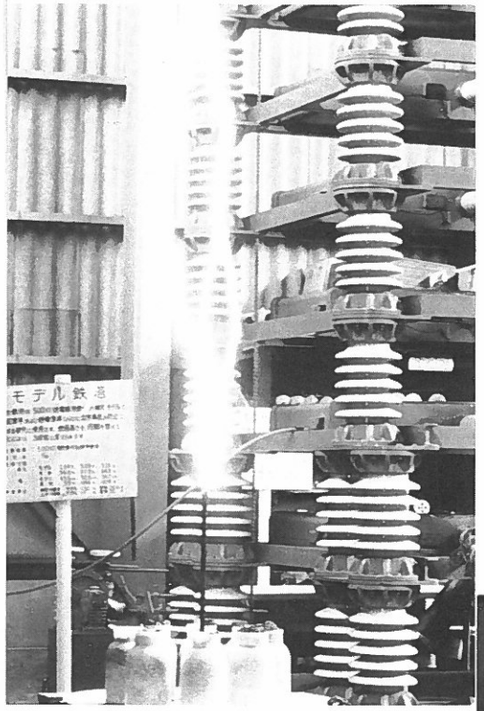
『技術の東北電力』を担う

―総合研究所を訪ねて―

総合研究所は昭和43年に，新技術の開発や東北特有の問題に対する独自の研究推進，さらには中央の諸機関や大学など外部機関との連携強化と地元産業に対する技術協力などを狙いとして設立されたもので，来年で創立20年を迎える。

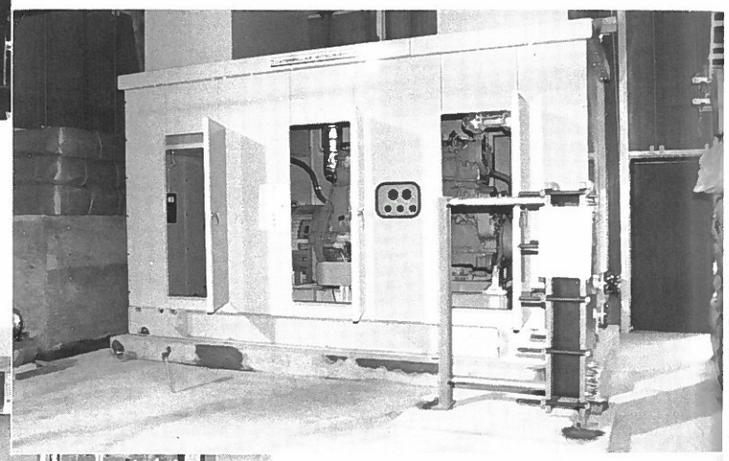
総合研究所は当社の技術開発の中枢を担うものであり，具体的な研究にあたっては先端技術分野を中心に産学協同研究を積極的に進め，また電力企業グループとしての技術力を高めるという観点から，関係会社も取り込んで総合的かつ効果的な研究活動を進めている。

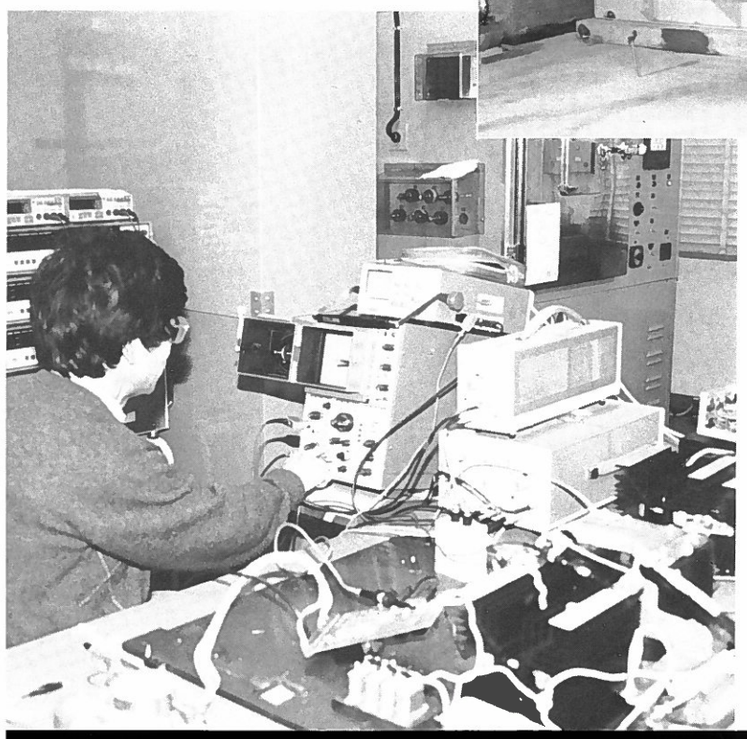
今回は，総合研究所で取り組む研究の幾つかをひろってみた。



▲特高実験室では，180万ボルトのインパルス発生装置により，シメジの育成に及ぼすインパルスの効果を研究している。
本年末には，育成状況を比較するための栽培建屋が完成，来年1月から本格的な研究にはいる。

▼9月7日から，出力100kW級のガスエンジンを利用したコージェネレーションシステムの建設が進められている。
本年末には，工事が完了し，来年1月から実証試験を開始する。





◀第二電力実験室では、東北大学の西澤潤一教授のご指導のもと静電誘導サイリスタのスイッチング特性についての研究が進められている。



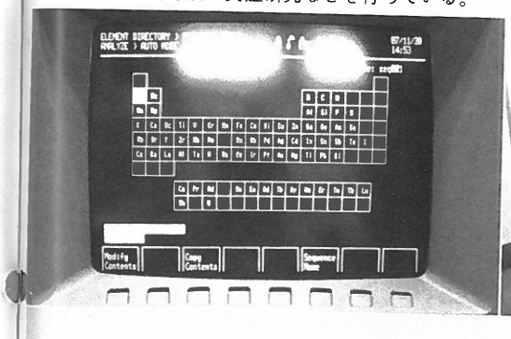
▼将来の負荷平準化ならびに需要開発につながる電力利用技術のひとつとして，電気自動車の研究開発やその普及のための方策を検討するため米国ソレック社の「ＥＶＡ―ＥＶコート」を導入した。
「㈶日本自動車研究所」での基本性能試験の後，当研究所で調査・研究を行っていく。





▲フォード社のワゴン車「エスコート」を改造した「ＥＶＡ―ＥＶコート」。
最高速度120km。時速80km走行では一充電当り100km走れる。

▼▶ＩＣＰ（誘導結合プラズマ発光分光分析装置）は水溶液中の73もの元素を高速高精度で分析できる。本装置を用いて，石炭，石炭灰，排水および環境中の微量元素等の分析を行っているほか，日常的なボイラー腐食スケール分析および火力発電部材の劣化度評価技術の開発を目指して進めている耐熱鋼材の微視組織変化の電気化学的検出方法の実証研究などを行っている。





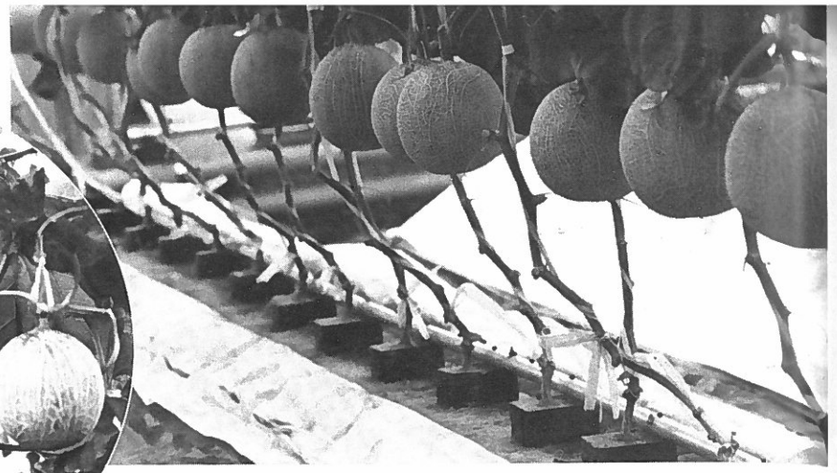


◀総合研究所で現在取り組んでいるテーマは「原価低減と安定供給に向けた技術開発」、「電気利用分野拡大に向けた技術開発」、「新エネルギー開発、省エネルギーに結びつく技術開発」、「地域社会の発展向上に資する研究開発」の4ジャンル102件。このうち約30件を東北大学などとの産学協同で進めている。

▶９月末に収穫したメロン。

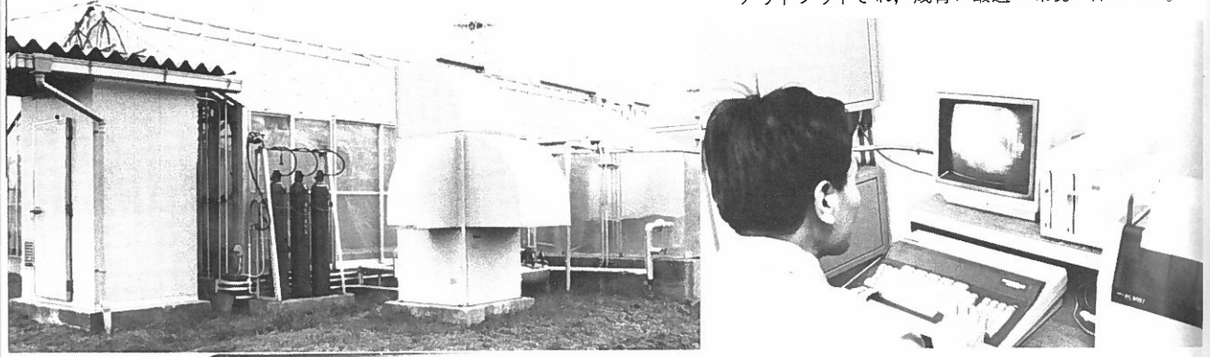
▼現在は，今年２回目のメロンが順調に育っている。（収穫は12月末の予定）



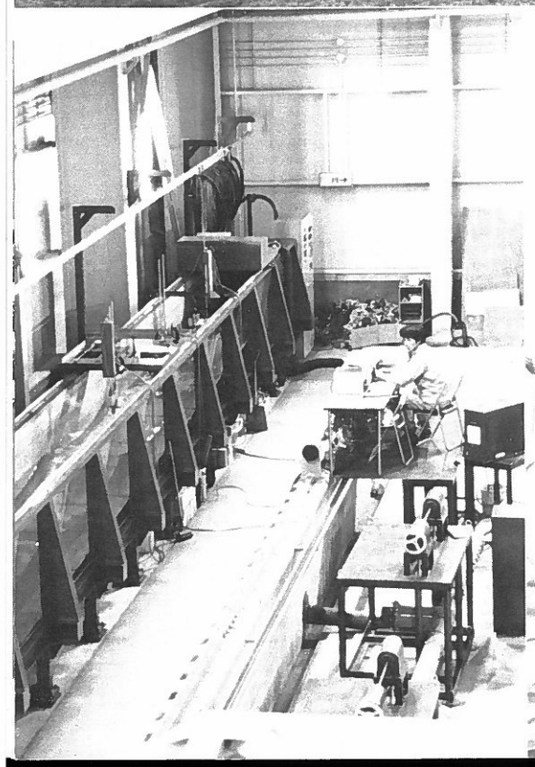


▲▼電気の有効利用の一環として，ロックウールを用いてメロンの水耕栽培を行っている。ハウス内の暖房にはヒートポンプが使用されている。

▼端末器には，ハウス内の温度や湿度などのデータがアウトプットされ，成育に最適の環境が保たれる。



◀水理実験室では，発電所放水路の水理を模擬し，取水制御および河川維持水量の放流を行う排水，放水のゲート流量特性の解明と水路内に突起物が生じた場合の流況や水頭損失を模型実験により究明する実験を行っている。



▼近い将来，太陽光発電装置が一般家庭用として普及し，配電系統に連系された場合の保護・保安や電圧変動など系統への悪影響に備え，直交磁芯形変圧器による系統連系装置の研究が進められている。



社誌・東北電力12月号目次

1987
NO. 329

特別企画

ーシリーズー 電気事業新時代……6
—Part 12—



ルポ 大阪ガスを訪ねて　I
「満足を届ける“ハローサービス”」…12



昭和62年度中間決算は
『減　収　減　益』……16

電気保安確保に顕著な功績認められる
第32回渋沢賞を受賞……20
（仮設変圧器車，難冠雪耐張がいし装置）



グラビア
『技術の東北電力』を担う
—総合研究所を訪ねて—
アタック
＆アタック　上北制御所



今月のことば……取締役火力部長　須藤　義悦……4
10月分の電力需給……27
安全と衛生のページ……中央労働災害防止協会会長賞受賞……28
地域の中で……須賀川営業所　配電課　山寺浩一さん……32
われらサークル仲間……三沢営業所「東北電力フィッシングクラブ」……33
スクラムダッシュ……能代営業所二ツ井出張所〝あしの会〟……34
家族会議拝見……岩手支店　営業・広報部　播待忠一さんご一家……36
フレッシュトーキング……築館営業所　高橋和司さん VS 高橋伸介さん…38
定年退職者アンケート……40

表紙の写真は仙台光のページェント（'86年）

今月のことば

今年を終わるに当たって



●取締役火力部長

須藤　義悦

今年の日本経済も幾多の波乱を含みながら，大きくは低成長のままに終わろうとしております。まことに慌ただしい１年でありました。

当社においても，この変革期に対処して，「21世紀に向けての経営発展基本構想」を策定し，新たな経営陣を迎え，かつ，重要な電気料金改定申請の問題等々，並々ならぬ大切な年でありました。

聞くところによれば，キリスト誕生以来，今日に至る約2,000年間のヨーロッパにおける年平均経済成長率は0.2％と言われ，これは，40年間で10％の成長率に相当するとのことです。

他方，ご承知の通り，日本におけるいわゆる「高度成長期」は年平均10％で約20年間続いたものであります。人類6,000年の歴史の中においても，極めて異例のことであったと申せましょう。

勿論，只今の低成長期こそ，まさに「安定成長期」と認識すべきであり，この姿の中でこそ，確固たる発展を逐げていかねばならぬものと心得ます。

さて，いささか唐突に話題を変えますが，かの家康もその治世の要として，座右に置いて最も愛読したという，唐の『貞観政要』の講説を読む機会を持ちました。

この書は御案内のとおり，リーダーたるべきものに対する肝要を厳しく説いておりますが，同時にこれと表裏を為すべき部下の心構えをも示すものではなかろうかと，ふと思いつき，改めてその観点から再読致しました。

リーダーの心構えの最たるものは，その「徳行」であるとともに，部下である者のそれは，まさに「自らの誠を尽くす」ことにこそ在ると読みました。

とりたてて，この1,300年も前の文言を云々するのも，一見はなはだしい時代遅れとも見えましょうが，私には時代を超えた何ものかを鋭く感じた次第です。

「成熟化」といい，「技術革新」といい，そして「国際化」といい，いずれの一つをとっても並々ならぬ変革と申せましょう。

これに対し，当社の『経営発展基本構想』は確固たる当社の姿勢を示すとともに，あわせて「地域繁栄への奉任」をも，その一貫した経営理念として掲げ，「豊かな東北」の実現を強く目指して進もうとしております。

この問題を身近なわれわれ自身の足元に引き寄せて考えた場合，会社におけるわれわれ日常の仕事一つひとつが，われわれ自身をも超え，わが家庭，わが会社の枠をも超えて，社会そのものにも役立つと信じ得るものではないでしょうか。

その充実感とその責任感こそが，われわれの強い自信となり，将来に対処すべき貴重なわれわれ自身の創造性を培ってくれるものではないでしょうか。

この一年を省みて，新しい年に期したいと思います。

—シリーズ—　Part 12　特別企画

電気事業新時代

『技術開発と基礎研究』

今後，複合エネルギー時代にあって，技術力は，市場を確保し，企業の成長をはかるための決定的な条件であり，基礎技術・先端技術等の分野にも幅広く視野を向けながら創造的な技術開発に取り組んでいく必要がある。

今回は，東京大学工学部の関根泰次教授に，基礎研究重視論を中心に今後の技術開発の方向性などについてご寄稿いただいた。

1．基礎研究重視論

このところ，連日，新聞，テレビで日本の経済大国ぶりと，それと並行してかつての(？)経済大国アメリカの経済的凋落ぶりを伝えるニュースが目につく。第２次大戦およびそれにつづく廃虚から這い上ることを体験してきたわれわれ世代にとっては，ただただ感無量というしかないが，身のまわりをながめてみると，ひたひたと新しい時代の波に洗われて感慨にばかりひたっていられない状況である。

われわれ大学に身をおくものとして，最近特に関心をそそられる事柄のひとつとして「産学協同」と「基礎研究重視」がある。産学協同といい，基礎研究重視といい，これまでにもずい分長い間論議されてきたが，昔と今で少しちがうのは，昔は主として大学や研究所を中心とするいわゆる「学」の立場からの声であったのに対し，最近は主として「産業界」の側から叫ばれていることである。

つい最近まで「学」が叫んできたことの裏には大学や研究所の研究費や設備，人員があまりに貧弱なためにもう少し基礎研究に関心をもってほしいという切羽つまった背景があったように思う。日本が高度成長を謳歌した60年代，70年代前半には特にそのような傾向が強かったようである。

ところが，最近，産業界のいう産学協同や基礎研究の重視には少し異る事情を背景にしているようにみえる。私見であるが，その背景には外圧と内圧がある。外圧というのは，欧米先進国からの「科学技術ただのり論」で，日本は欧米のうみだした科学技術の商業化に成功しただけで，基礎研究への投資なしに経済的果実ばかりを手にしているという非難である。内圧というのは，日本の技術が欧米諸国のそれに追いついた今，外国から学ぶべき技術は少なくなった，日本が独自の基礎研究を行い，新しい技術を開発しなければ一層の経済力強化は困難であるという考え方である。人によっては，単なる経済力強化だけでなく，独自技術の開発によって，国際社会へ文化的貢献を行うべきだという一段と高い立場(？)からの主張もある。

関根　泰次氏（昭和６年生まれ）

昭和29年　東京大学工学部電気工学科卒業
34年　東京大学大学院工学博士課程を修了
東京大学工学部講師
35年　〃　助教授
47年　〃　教授



どのような理由，背景によるにせよ，基礎研究を重視するのは，まちがいのない時代の流れのようである。事実，統計によれば，民間企業の基礎研究費（何を基礎研究というかは議論のある所であるが）は1980年に1,570億円であったものが，1985年には3,500億円，全研究開発費の12.8％に達し，これは欧米なみであるという。

今の時期，基礎研究重視を唱えているのは日本だけかというと決してそうでなく，アメリカのレーガン大統領は1987年の年頭一般教書で科学技術振興によって国際競争力を確保し，アメリカの卓越性を目指すことをアメリカの第一の国家目標に設定しているのである。

「基礎研究の重視」は「独創性の発揮」を必要とし，ひいては「日本固有の科学技術」をもつにはどうしたら良いかという議論に発展していく。この段階で，われわれは２つの問題にぶつかる。ひとつは「日本人は独創的な仕事ができるか？日本は文化大国たりうる資質をもっているか？」ということであり，もうひとつの問題は「基礎研究重視は産業活動，経済力の強化に役立つのか？」という問題である。

2．日本人の独創性

第一の問題については，物理学の父，長岡半太郎博士も同じような問題に悩んだらしく，明治のはじめ東大理学部在学中「東洋人に科学研究能力があるか否か」と悩み１年休学して中国古典を調べ自信を得て復学した（1987年８月14日朝日新聞夕刊）という。トインビー博士はいわゆる日本人文明改宗説を唱え，日本はその近代化にあたって，日本人の伝統的原理をすててヨーロッパ的原理に乗りかえたものとして，日

『技術開発と基礎研究』

東京大学工学部教授
関根泰次氏

本の現在の文化の土壌が比較的浅いとしている。これに対し，梅棹忠夫氏は，トインビー氏の説に反論して，もともと，日本の知的水準は伝統的に高く，日本文化も豊富な内容をもっていた，日本の近代化に当っては，西欧文明の日本化を図っただけで日本独自の文化をすてたわけではないとし，その例として，ゼロ戦，大和，新幹線の例を挙げ，伝統技術としても自動車，紡績，織機，時計，醱酵，瀬戸物等を挙げている。

日本が科学技術の分野においても西欧と異った文化をもっていること，西欧文明それ自体限界をもっていることは，最近はやりのＡＩの創始者といわれる Feigen baum などもその著 Handbook of Artificial Intelligenceの日本語版序文に「西欧社会では（人工知能という考え方の導入について）この産業の受け入れに対し障壁がある。これらの障壁は西欧の哲学と宗教に根ざしたものである」といって，西欧では，人間の知能に対する分析は神への冒瀆とみる空気があること，日本はこの点すばらしい精神的自由をもっていることを指摘している。

日本人が独創性をもっているか否かについては，以上のように諸説があり，にわかに断じがたいし，また断じても無意味であるが，少くとも全く独創性がないと悲観してあきらめてしまう必要はなさそうである。

3. 基礎研究重視は産業活動，経済力の強化に役立つのか？

そこで第２の問題に移ろう。この問題は形而上的な日本人の独創性についての問題より，もっと身近かの問題であるだけに，日本の歴史上，はじめて経済大国となった日本人にとってより切実な問題である。

結論からいうと，これまでに日本より基礎研究を重視してきたといわれるイギリス，アメリカ，ドイツ，フランス等の列強の経験に照らすと，日本における大方の人々の期待(？)に反し，基礎研究を重視しても，どうも直接には経済力の強化にはむすびつかないようである。むすびつかないどころか，場合によると却って悪い影響を与えることもあるというので厄介である。

スタンフォード大学のJ.Klein教授は基礎的な科学研究と産業活動の関連についていろいろの事例を研究した結果，産業活動における科学技術の役割としては，基礎研究―開発研究―生産というステップをふむこと，この中で経済活動に特に大きな影響を与える開発研究を支配するのは現在時点の研究でなく，過去から現在までの間に蓄積された科学技術知識であることを指摘している。基礎研究は必要ではあるが，実際にそれがつねに経済活動にむすびつくわけではなく，経済的効果をもたらすのはむしろ市場への好奇心，探究心に根ざしたイノベーションであることを訴えている。

ロンドン大学の森島通大氏は「文化の発展は必ずしも経済の発展とむすびつかない」ことを多くの歴史的事実を挙げて例証している。氏は，基礎研究，もっと広くは文化発展の推進力のひとつの尺度として，各国のノーベル賞受賞者数をとりあげて，時系列的にその国際比較を行い(1)文化や学問は比較的短時日の間に急激な発展と没落をくりかえすものであること。(2)文化，学問の興隆は少数の天才によることの大きいこと。(3)国の経済力は国民の総力に依存し，したがって短時間ではなかなかつぶれないこと等をいろいろな具体例をもって示している。

その例をみるとたしかに，科学技術上の重要な発見，発明はその国の経済力が低い時に行われており，この発見，発明がその国の経済力を高めたという例は殆どない。そういえばわが国の湯川博士の研究も日本が経済的には非常につらかった時期に行われており，また湯川博士の研究によって，日本の経済力が格段に良くなったということもなさそうである。(もちろん，湯川博士の立派な業績に刺激されて多くの有能な人が理工系に進み，ひいてはこれが日本の産業界の活力をもたらしたことはあろうが，湯川博士の研究が直接，経済的功徳をもたらしたわけではない)

つまり歴史の教えるところによれば「経済が繁栄することをたのしみに，あるいは経済が繁栄することを目指して基礎研究を行ったり学問を振興させる」ことは「間違い」で，経済を犠牲にしても文化をおこす決心でなければ，学問文化など興きるものではないということである。

森島氏は戦後，日本，ドイツが文化には目もくれずひたすら経済一本で来たからこそ日本，ドイツがここまで来たのであり，イギリスは文化政策を重視したがために経済で行きづまったのであるとのべている。氏はこの関係を文化と経済の逆平行（逆比例）関係とよんでいる。

これらは，われわれにとって仲々耳の痛い説であるが，考えてみれば戦後大学をはじめとする日本の教育システムが個人的な能力の開発というよりは，ひたすら，国家あるいは経済界の必要とする人材の供給に専念し，大多数の集団からはずれた特異な才能をもつ人は（半ば人為的，強制的に）除外してきたことはある程度事実であろう。また今日の日本の経済的繁栄がこのような比較的むだのない画一的能力をもった平均値としては高いレベルの人材を社会に送り出したことに依る所が大きいのもたしかである。政策面でみても，通産・科学技術庁の研究予算と文部省の研究予算をくらべてみれば前者が何層倍も大きいこと，その時々に応じて日本産業にとってもっとも重要な戦略的産業に人材と資金を投入してきたことなどを考えればこのことははっきりする。教育面でも日本は理学部重視型より工学部重視型で，個人個人の能力よりは社会が設定した能力をもったできるだけ多くの均質の人を供給すること（大学の平準化）

『技術開発と基礎研究』

東京大学工学部教授
関根泰次氏

に意を用いてきた。つまり，戦後ヨーロッパ式のエリート教育方式からアメリカ式の大量教養主義に切りかえられたのである。

これに対し，イギリスなどではオックスフォードやケンブリッジのテューター方式にみられるように，個人的能力を最大限に発揮することを目指し，少数精説主義の高等教育には成功したものの発明の大量生産化には失敗したわけである。イギリスではこのような傾向は大学だけでなく小学校から始まっている。このようなイギリス式の個人重視の教育が成功して十分個人，個人の能力をひき出されると，能力をひき出された人は，精神的に極めて充実した状態になり（ある意味で世俗的な意味でのハングリーな状態から脱出し）その状態をいつまでも維持することをねがうようになる。自分の精神の自由まで犠牲にし，自分の意に反してつらい思いをして金をかせぐより，(喰うことに困らなければ）少々給料が少くても，自分の好きなことのできる生活をしたいと望むようになる。もちろんこのような傾向は，産業活動，経済力強化という点からはマイナスで，イギリスはその教育に成功したが故に経済的には凋落の道を辿ったということになる。

イギリスのサッチャー首相が，イギリスは原子力も，ジェット機も，レーダーもそのもとになる科学や技術はすべてイギリス人のものになるのに，その経済的果実はすべてイギリス人外の人，なかんづく，日本にとられたことを例をあげてくやしがっていたことは未だにわれわれの記憶に新しいことであるし，今日，これに反発するサッチャー首相が「経済力なくしてなんの文化か？」という考えで，経済力重視政策をうち出し，これに対しイギリスの大学関係者が悲鳴をあげていることはわれわれが親しく経験するところである。

4. 独創性と知的遊びの雰囲気

文化・学問の推進，独創的研究の発展に必要な環境整備の要件としては，研究費，設備の整備いろいろあろうが，もっとも大切なのは，それを生み出す知的雰囲気である。それは往々にして経済力強化に必要な雰囲気と相対立する。前記森島氏は，イギリスのこのような知的雰囲気の中にいる人を多少カリカチュア的に高等遊民という名で呼んでいる。明治の初頭イギリスに学んだ漱石が当地で経験したこのような土壌が当時の日本に全くないことから，これを表現する手段として，〝夫君〟〝妻君〟〝令嬢〟等の言葉を発明し，ハイカラで知的に高い水準にある人種を，実生活ではバイタリティーに富むが知的には必ずしも高い水準にいない〝亭主〟や〝おかみ〟などの人種と区別したのはそのひとつのあらわれだそうである。

事実われわれの専門分野でも外国に行くと20年も30年も同じテーマに取り組んで，その分野ではまさに生き辞引的存在となってゆったりと研究を楽しんでいる人に時々ぶつかることがある。日本などでは10年おきに（否２～３年おきに）テーマをかえて新しい話題を追っていないと世間から忘れられてしまう所であるが，そのような人をみているとうらやましいというより，われわれとは別世界に住んでいるのではないかという気がしてくる。

このような高等遊民の世界では，(1)教育というものは将来の経済力のための投資でなく，現在の生活をエンジョイするための知的生活の消費財であり，(2)このような教育が成功すればする程人々は労働，産業界活動から離脱して産業活動の低下をもたらすことになる。

事実，イギリスの大学では優秀な人程，給与は少なくてもより自由な生活をエンジョイできる教育・研究部門に向き，競争のはげしい仕事のきつい産業界や官僚，会社経営者にはなりたがらないらしい。大学でも工学部に進む人より理学部に進む人の方が多い。日本でも理学部では大学院のドクターコースに進む人が多く，しかも規定の年限が経ち学位をとっても，十分働く分野のある産業界に入ろうとせず，数少ない大学教授のポストを目指す（殆ど無給の）いわゆるオーバードクターが数多くいることはイギリスと軌を一にしているということができよう。

5. 結びにかえて

残る紙数も少くなったようである。結論をいそがねばならない。

要するに，独創的な研究をするには，高度の知的雰囲気をつくり出すことが必要であり，しかもそのような世界での知的活動は必ずしも産業活動，経済力の強化をたらすものではないという小生のように工学部に身をおく者にとっては多少困った因果関係にぶつかることになる。

「独創性の重視」と「経済力の維持・強化」という相反するテーマを両立させる何か良い方法はないものか，いろいろ考えさせられるが，はじめにものべたように諸般の事情から自前の科学技術を開拓していかなければならないわれわれとしては，手をこまねいているわけにもいくまい。多少両方が両立しないことばかり強調してきたきらいがないかなと，私自身反省しないでもないが，不幸にして，こうすれば両立するという心強い説に接したこともないし（あれば是非教えていただきたい），上に述べたように「基礎研究重視」，「独創性の発揮」とむやみに力んで猪突しても効果がないだけでなく，場合によっては害もあることも確かであるから，ここはしばらく落ちついて，進むべき道をじっくり考えるべきであろう。それにしても外国のこれまでの例をみると，これから試行錯誤をくりかえして，両者を両立させるということに日本流に成功するには数十年の時間が必要なようである。

ルポ　大阪ガスを訪ねて　I

『満足を届ける“ハローサービス”』

「訪問時間をはっきり約束してほしい」,「夜間や休日でもすぐに来てほしい」…。サービスに対するお客さまのニーズは，日々多様化・高度化してきています。

今回は，こうしたお客さまのニーズに的確に対応し，お客さまにご満足をお届けするため，最新のネットワークを駆使した『ハローサービス』を展開している大阪ガスを訪ねてみました。

◆もっと，お客さまに目を！

「毎度ありがとうございます。東北電力でございます」―いま，社内では『お客さま第一』,『マーケットイン』へと私たちの意識や仕事の変革が急ピッチで進められています。

『供給』から『販売』への意識変革は，私たちが営業開発活動を展開していくための基本となるものであり，お客さまとの信頼関係を基盤としながら，お客さまの欲求を先取りしお客さまに喜んでいただけるサービスを提供していかなければなりません。

私たちはこれまで，お客さまの「停電をしないで！」,「料金を安く！」という声にお応えするため，電力の安定供給や電気料金の長期安定に向けて努力を続けてきました。今後も，この努力が必要なことは言うまでもありません。

しかし，世の中が大きく変化している中で，私たちはその変化に敏感であったでしょうか。お客さまの生活意識の変化を先取りし，お客さまが何を望んでおられるのか，どうしたら喜んで頂けるのかを常に考えてきたでしょうか。従来のやり方や社内の論理を優先させてはいなかったでしょうか。

今後，地域社会との信頼関係を強固なものにしていくためには，まだまだ課題が多いと思われます。

今回は，こうした問題意識の中からサービスレベルの向上とその全社的展開をはかる大阪ガスにおじゃましてみました。





「いつもありがとうございます。大阪ガスでございます」―さわやかに，そして迅速・確実に対応する。

◆地域への貢献をめざして幅広く事業を展開

大阪ガスは，明治38年に初めて大阪にガスを供給して以来80年余，現在では近畿２府４県の約490万戸に都市ガスを供給しています。

都市ガスの主原料はＬＮＧ。クリーンでカロリーが高く，かつ供給の安定しているこのエネルギーに早くから目をつけた大阪ガスでは，昭和50年から石油・石炭系のガスからの転換を進め，65年末には全ての供給区域の天然ガス転換が終了する予定です。（62／３末現在で83％）

また，ガス事業を通じて培ってきた技術・ノウハウや人材などの豊かな経営資源を有効に活用して，さまざまな事業分野で新規事業に取り組んでいます。現在，ガス製造に伴うコークス・化成品，ＬＮＧの冷熱利用，情報関連，さらには文化，スポーツ，外食，インテリアなど生活関連分野に至るまで，関係会社の数は47社。事業基盤の強化と地域社会への貢献をめざして幅広く事業を展開しています。

◆お客さまの立場に立った『ハローサービス』

ところで，今回の目的は本業のガス事業。お客さまサービスについて話をうかがうため，雇客数約53万戸を擁する北摂(ほくせつ)支社（大阪府高槻(たかつき)市）を訪ねてみました。



ショールームに入ると，ガス機器も販売しているだけに，多くの機器がきれいに陳列されており，ガラス張りで仕切られた奥の方は料理教室になっています。そのまわりでは，ケーキ作りの材料や器具なども並べられ販売されていました。

ここで，お客さまセンター総合受付グループの土堂チーフに迎えられ，お客さまセンターに案内していただきました。

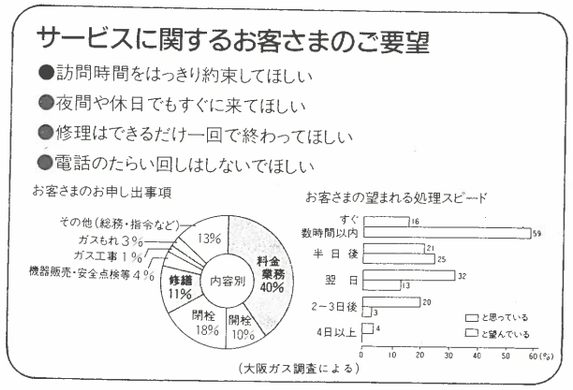
ドアを開けると，レシーバーを耳に端末機に向かう女性たちが整然とならんでいます。

――まるでＮＴＴの電話交換室みたいですね。

土堂　ここが北摂支社のお客さまセンターです。大阪ガスの『ハローサービス』の中枢を担う総合受付窓口なんですよ。

――その『ハローサービス』とはどういうものですか。

土堂　お客さまにより便利で，スピーディー，確実なサービスを提供する。それが『ハローサービス』です。近年，サービスに対するお客さまのご要望が，ますます高度化・多様化してきています。「訪問時間をはっきり約束してほしい」,「休日や午後５時以降でもすぐき





てほしい」。これは以前からあるお客さまのご要望ですが，「モノ社会」から「トキ社会」へと価値観が変化するなかにあって，最近，それが特に厳しくなりつつあります。

そこで，よりお客さまの立場に立ったサービスを提供するため，ガスグループも含めた組織・体制を刷新。サービス意識の変革を進めて，日曜・祭日の営業，サービス時間帯の延長など大幅なサービスの向上をはかりました。もちろん，最新の情報通信技術を駆使して，これら一連のサービス業務をトータルに支援するシステムや，大阪ガスおよびガスグループ全体をオンラインで結ぶサービス情報ネットワークがこれをバックアップしています。

◆より便利に，確実に，スピーディーに

――具体的には，今までのサービスとどのように変わったのですか。

土堂　まず，平日のサービス時間帯を午後7時まで延長し，故障修繕，開閉栓などのサービス業務は日曜・祭日も行うようにしました。

また，ここ『お客さまセンター』では，お客さまからの様々なお申し込みを一括受付し，コンピュータ端末機から必要な情報を呼び出して即時対応します。(ハローシステム)

さらに，この端末機はオンラインで会社のサービスショップ，ガス工事会社など320数社のガスグループと結ばれております。そして，1日を4時間帯（午前9時～12時，午後1時～3時，3時～5時，5時～7時)に区分し，ご要望に応じた時間帯に訪問できるようにしました。また，お客さま3万戸に1台の割でハローカーを配置し，無線で緊急要件に対処しています。

◆電話のタライまわしはもうしません！

お客さまからの申し込みは，ガス料金・ガス器具に関するお問い合わせ，開閉栓や機器修繕，ガス工事の申し込みなど多岐に渡ります。

従来はこれを電話交換手が受け，関係個所に電話をまわしていました。しかし，この方法では電話のタライまわしとなることもあり，お客さまを長い時間お待たせする上，1回の電話に名前や要件を何回も繰り返していただくということが起きていました。

また，お客さまの情報の把握や社内の処理に時間を要し，「すぐ来てほしい」というお客さまのご要望に添えなかったのが実状でした。

『ハローサービス』では，お客さまからの電話は全てお客さまセンターに入ります。

この電話は，ＡＣＤ（コンピュータ制御の電



話受付システム）で2グループ18の電話受付者席(北摂支社の場合)に先着順に均等配分され，オンラインで検索しながらサービスショップや工事会社へ業務依頼を行います。つまり，全ての処理がここで完了するわけです。

◆機動力抜群のハローシステム

端末機では，お客さまの電話番号，住所，名前のいずれかを入力すれば，必要なデータをすばやく呼び出すことができます。

この端末機には，お客さまの所有ガス機器やその修繕経歴，ガス料金情報やガス工事履歴などガスの使用に関する全ての情報が入力されており，お客さま申し出事項に従って，希望日時に訪問可能なサービスショップを自動的に捜し出し，サービスショップの端末機に作業指示書を発行，さらにその作業の進捗状況などが一目で把握できるようになっています。

また，例えば機器修繕の場合，故障の状況を入力すれば，過去の故障統計から故障部位，処置，必要部品を推定・検索し，訪問時に携帯すべき部品を知らせることにより，部品違いなどによる再訪問を減らすなど，お客さまにより便利で，スピーディー，確実なサービスができるシステムとなっています。



これら『ハローサービス』の概要は別図の通りですが，この『お客さまセンター』の開設に合わせて大阪ガスでは明確なサービス目標を設定し，総合的にサービスの向上をはかっているのです。

（以下次号に続く）





昭和62年度中間決算は，本年１月からの料金引下げ率の拡大や出水率が88.2％と大幅渇水であったことなどにより，当社創業以来初の減収減益の決算となった。

62年度中間決算の概要

【需　要】

昭和62年度上半期における販売電力量は，215億6,900万kWhとなり，前年同期に比べ3.4％の増となった。

このうち，電灯は，新設住宅着工戸数の堅調な伸びや，夏場の気温が高めに推移したことによる冷房設備の稼働増等により，前年同期に比べ６％の増となった。

また，業務用電力および小口電力は，電灯同様の気温要因に加え，業務用電力で，ＯＡ機器の普及拡大や商店の営業時間延長等があったこと。小口電力で，機械，食料品等の業種が堅調な伸びを示したことなどから高い伸びとなった。

大口電力は，鉄鋼，化学等の素材型産業で減産が行われたことに加え，自家発の新増設がみられたことなどから前年同期を下回る実績となった。この結果，電力合計では，前年同期に比べ2.5％増の低い伸びにとどまった。

【供　給】

当上半期は，出水率が88.2％と大幅な渇水となり水力発電が減少したが，火力発電の焚き増しに加え，原子力広域開発による福島第二４号機が営業運転を開始したことなどから，安定した供給を行うことができた。

【収　益】

電灯電力収入は，需要の増加があったものの電気料金暫定引下げ措置の影響などにより，前年同期に比べ24億5,200万円減の4,862億2,200万円となり，これに，その他の収益を加えた中間経常収益合計では，前年同期に比べ66億300万円減の5,234億5,500万円となった。

【費　用】

中間経常費用合計は，前年同期に比べ13億4,400万円増の4,900億2,900万円となった。

その主な内容は次のとおりである。

1. 汽力発電費は，円高等による燃料費の減や，新規電源の取得がなかったことによる減価償却費の減などにより，前年同期に比べ102億100万円減の1,200億5,500万円となった。
2. 地帯間購入電力料は，受電増などにより，前年同期に比べ31億1,700万円増の620億6,200万円となった。
3. 配電費は，修繕費の増などにより，前年同期に比べ56億200万円増の482億3,600万円となった。
4. 一般管理費は，退職者の増加等による退職給与金の増などにより，前年同期に比べ69億2,400万円増の391億7,500万円となった。
5. 支払利息は，金利の低下や社債・借入金残高の減少などにより，前年同期に比べ65億6,300万円減の542億4,100万円となった。

【利　益】

以上の結果，中間経常利益は，前年同期に比べ79億4,700万円減（△19.2％）の334億2,600万円となった。

また，中間利益は，前年同期に比べ５億3,000万円減（△2.6％）の195億500万円となった。

需給関係比較表（昭和62年度上半期）

（単位：百万kWh，％）

			62年度上半期 (A)	61年度上半期 (B)	前年同期比 (A)／(B)
出水率（％）			88.2	102.0	（差引）△ 13.8
供給力	自社	水力	4,607	5,193	88.7
		火力	11,846	11,050	107.2
		原子力	1,157	1,289	89.7
		計	17,610	17,532	100.4
	他社	水力	1,688	1,733	97.4
		火力	2,206	2,231	98.9
		原子力	490	591	82.9
		計	4,384	4,555	96.3
	融通（差引）		2,023	1,294	156.4
	揚水用		△ 87	△ 122	71.1
	合計		23,930	23,259	102.9
需要	電燈		5,836	5,506	106.0
	電力	業務用	3,061	2,717	112.7
		小口	4,424	4,041	109.5
		大口	7,329	7,617	96.2
		その他	919	972	94.5
		計	15,733	15,347	102.5
	合計		21,569	20,853	103.4

62年度中間決算の特徴

今決算における特徴点は以下のとおりである。

【収入面】

■ **電力需要の増加**

62年度上半期の販売電力量は，大口電力が素材業種の落込みや自家発の増加により前年を下回る実績となったものの，電灯・一般電力が個人消費の増加や商店の営業時間延長，内需関連業種の高操業に加え，８月を除く夏場の気温が高めに推移したことによる冷房設備の稼動増等もあり，電灯・電力合計では，215億6,900万kWh，前年同期比103.4％の実績と

昭和62年度中間決算は減収減益

なった。

■ 電気料金暫定引下げ措置による差益還元

62年に発生することが見込まれる円高メリット等を原資に，62年１月から62年12月までの12か月間，引下げ幅を拡大して料金の暫定引下げ措置を実施しており，料金措置対応額（いわゆる還元額）が，前年同期に比べ約354億円増加したことから，減収となった。

以上の結果，電灯・電力収入合計では4,862億2,200万円と，前年同期に比べ0.5%の減少となった。

収支比較表（昭和62年度上半期）

（単位：百万円，%）

		62年度上半期 (A)	61年度上半期 (B)	増減 (A－B)	前年同期比 (A)／(B)
収入	電灯料	159,234	155,607	3,626	102.3
	電力料	326,988	333,067	△ 6,078	98.2
	小計	486,222	488,674	△ 2,452	99.5
	経常収益合計	523,455	530,059	△ 6,603	98.8
	収入合計	523,455	530,059	△ 6,603	98.8
支出	人件費	55,318	49,665	5,652	111.4
	燃料費	74,959	84,014	△ 9,055	89.2
	修繕費	45,678	39,926	5,752	114.4
	減価償却費	61,354	63,710	△ 2,355	96.3
	購入電力料	110,142	109,100	1,041	101.0
	支払利息	54,241	60,805	△ 6,563	89.2
	経常費用合計	490,029	488,684	1,344	100.3
	支出合計	503,949	510,022	△ 6,073	98.8
経常利益		33,426	41,374	△ 7,947	80.8
中間利益		19,505	20,036	△ 530	97.4

（注）1. 支出合計には，渇水準備金引当（又は取崩し），法人税を含む。
2. 記載金額は，百万円未満を切り捨てて表示している。

【支出面】

■ 燃料費の減少

電力需要の増加や，渇水などの増加要因があったものの，為替レートが一層の円高で推移したことや，発電所の効率運転等に努めたことなどから，燃料費が減少した。

■ 人件費の増加

定年延長を段階的に実施しているため，前年同期に定年退職者がなかったのに対し，62年度上半期には発生したため，退職給与金が増加したことなどにより，人件費が増加した。

■ 修繕費の増加

火力発電設備等，経年設備の機能維持，回復のための工事増や，電力流通設備の供給信頼度向上対策として電線張替工事，ならびに保安対策工事等に力を注いだ結果，修繕費が増加した。

■ 減価償却費の減少

当社の脱石油電源の開発が一段落し，大型電源の取得がなかったことに加え，効率的な設備形成に努めたことから，減価償却費が減少した。

昭和62年度中間決算主要諸元

項目			単位	62／上	61／上	増減
販売電力量	電灯	実績	百万kWh	5,836	5,506	330
		前年同期比	%	106.0	100.2	—
	電力	実績	百万kWh	15,733	15,347	386
		前年同期比	%	102.5	96.7	—
	合計	実績	百万kWh	21,569	20,853	716
		前年同期比	%	103.4	97.6	—
	（再掲）大口電力	実績	百万kWh	7,329	7,617	△ 288
		前年同期比	%	96.2	93.0	—
出水率			%	88.2	102.0	△ 13.8
原子力設備利用率			%	50.3	56.0	△ 5.7
原油CIF価格			ドル／バーレル	18.2	12.5	△ 5.7
為替レート			円／ドル	146	164	△ 18

■ 支払利息の減少

社債，借入金の残高が減少したことや金利水準の低下，および62年１月に金利1.9%の転換社債を発行したことなどから，支払利息が減少した。

■ 購入電力料の増加

東京電力との「広域運営の新展開」の一環として当社が開発参加していた福島第二４号機が８月25日に営業運転を開始したこと，および，既存の原子力広域開発電源が順調な運転を継続したことなどにより，購入電力料が増加した。

■ 経営の減量化・効率化

脱石油電源の開発や，東京電力との「広域運営の新展開」の成果を踏まえて，電源開発の繰延べ等の設備投資の効率化をはかったほか，新技術・新工法の導入などにより，効率的な設備形成を推進した。また，低利な転換社債や外国債の発行等による資金コストの低減，ＯＡ化，業務改善等，業務面での効率化にも積極的に取組み，支出の抑制に努めた。

【利益】

このように，62年度中間決算は，引き続き経営全般にわたる徹底した効率化に努めるなかで，需要の堅調な伸びはあったものの，62年１月から引下げ幅を拡大して実施している電気料金暫定引下げ措置が，期を通じてフルに影響したこと，加えて，減価償却費，支払利息等の資本費が減少する一方で，大幅な渇水による影響があったことなどから，前年同期に比べ，減収減益の決算となった。

電気保安確保に顕著な功績認められる



第32回渋沢賞を受賞

○ 仮設変圧器車

○ 難冠雪耐張がいし装置

当社は，このたび，これまで開発・実用化してきた「仮設変圧器車」と「難冠雪耐張がいし装置」の２件について，第32回渋沢賞を受賞した。

渋沢賞は，電気保安行政の礎を築かれた故・渋沢元治博士の意を体して，広く電気保安確保にすぐれた業績をあげた対象者に贈られる賞で昭和31年に設定されたものである。

また，同賞は，電気技術に関する権威ある賞として各界から認められており，当社も，これまで18件の受賞実績がある。

今回の受賞は，頻度の多い柱上変圧器の揚替工事が安全かつ無停電で作業可能になったこと（仮設変圧器車），および冬期間の多雪地帯における厳しい作業下での送電線のがいし冠雪除去作業が省略されたこと（難冠雪耐張がいし装置），など電気安全に関する実績が認められたものである。

以下に「難冠雪耐張がいし装置」の概要を紹介する。（「仮設変圧器車」については社誌５月号を参照）

『難冠雪耐張がいし装置』の概要について

はじめに

多雪地帯を通過する送電線においては，耐張がいし装置への冠雪時の絶縁耐力低下による閃絡事故(注1)は，その性質上，広範囲な多重事故へと進展する恐れがあり，電線着雪による事故とともに克服すべき課題の一つである。

従来，これら多雪地帯における送電線のがいし冠雪防止対策としては，主として送電線停止もしくは活線状態で，厳しい気象条件下での人海戦術による基別毎の冠雪除去作業を実施しているのが現状である。

このため上記に代る対策として，昭和59年度に「難冠雪耐張がいし装置」を実用化し，その適用により，厳しい気象条件下での膨大な冠雪落し作業と昇塔・活線近接作業による危険要因の回避および冠雪によるがいし耐電圧特性の低下の抑制をはかった。

装置の特徴

本装置は154kV以下の二連耐張装置において，従来水平配置となっているがいし連を垂直配置としたもので，水平二連装置に比べ，がいし連への冠雪発達が緩和され，また自然落雪しやすいことから，冠雪によるがいし連耐電圧特性の低下の抑制と，冠雪除去作業の回避ができるのが特徴である。

本装置の開発にあたって，構造，性能面で留意した事項は次のとおりである。

① 既設設備への適用が可能であること。

② アーク発生時，特に下側がいし連で発弧した場合，アークが速やかに上連ホーンへ移行し，がいしへ悪影響を与えないこと。

③ 電線動揺時や片連がいしの断連時に上下がいし連が衝突しないこと。

なお，本装置の鉄塔への取付けにあたっては，鉄塔腕金の冠雪が，がいし連の冠雪を助長するのを防止するため，腕金先端部とがいし装置間にロッド（長さ900mm）を挿入したほか，垂直二連化およびロッドの挿入に伴い長大となるジャンパ線(注2)のクリアランス(注3)確保のためジャンパ線の補強も併せて配慮した。

今回開発・実用化した「難冠雪耐張がいし装置」を多雪地帯の154kV送電線路を対象に59年度から適用を開始し，64年度までには要対策個所への取付けを完了することとしている。これにより多雪地帯を経過する送電線におけるがいし連冠雪による閃絡事故の防止はもとより，厳しい作業環境下での人力によるがいし冠雪除去作業の省力化（平均延約1,000人日/年）および作業安全化がはかられることとなる。

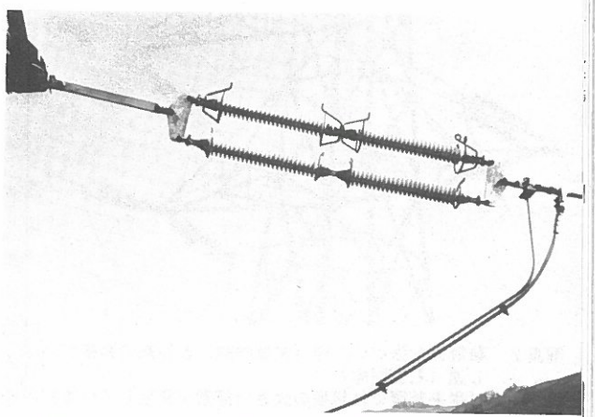
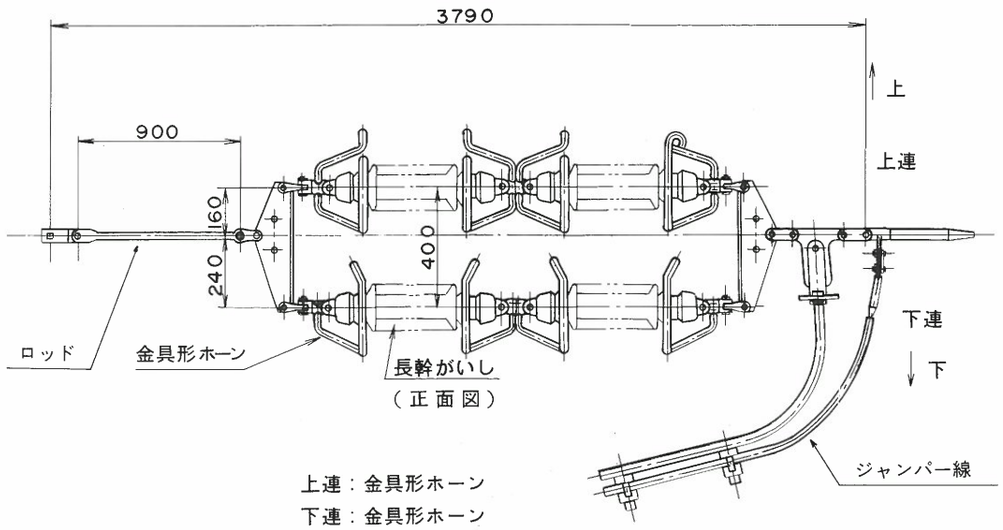


写真１　ロッド（左上の棒）と垂直配置のがいし連

第１図　長幹がいしを用いた耐張装置



上連：金具形ホーン
下連：金具形ホーン

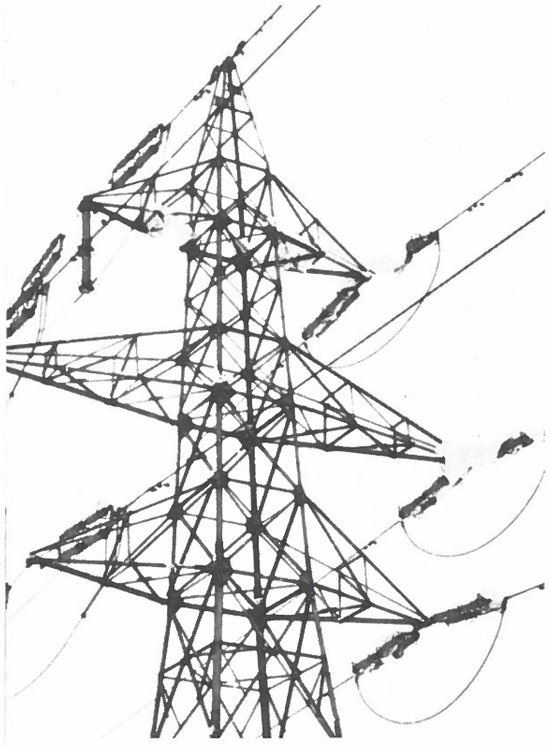


写真２　難冠雪耐張がいし連（左側回線）と従来の耐張がいし連（右側回線）
〔従来装置には規模の大きい冠雪が発生している〕

用語の説明

（注１）　閃絡（せんらく）
　通常絶縁を保っている充電部が雷などのため，絶縁が保てなくなり，いわゆる〝ショート〟となる状態

（注２）　ジャンパー（jumper）線
　がいしを用いて電線を鉄塔の両端に取付ける際（耐張がいし装置）両端の電線を接続する電線

（注３）　クリアランス（clearance：ゆとり，すき間）
　充電した部分と対地，または線間との絶縁上必要な空間距離

最近の渋沢賞受賞状況

昭和55年度	配電線故障探査装置の開発・実用化
	高圧用絶縁テープ巻付器の開発・実用化
昭和56年度	高所用ロープ取付器の開発・実用化
	特別高圧回路検相器の開発・実用化
	塩害予知警報装置の開発・実用化
昭和57年度	難着雪ビーム開発・実用化
	土壌接地電極の開発・実用化
昭和58年度	電力系統動特性自動記録装置の開発・実用化
	低圧用端末キャップの開発・実用化
昭和59年度	高圧計器結線チェッカーの開発・実用化
昭和61年度	高圧電力量計取替装置の開発・実用化

アタック&アタック



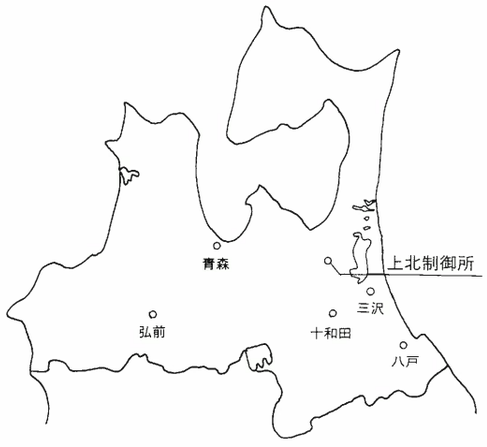
上北制御所

江戸日本橋を起点として176番目に位する「蒼前平（そうぜんたい）一里塚」が昔ながらの風情を留める，そのすぐ側に上北制御所はある。

冬場は雪が軒下まで積もるという名だたる多雪地帯を抱え，パトロール時にはかんじきが必需品。この苛酷な自然環境に負けじと，杉田所長以下総勢16名の男達が，三八・上北地方の系統制御を司る。

現在，ここで，六ヶ所村に立地が決った国家的大プロジェクト，原子燃料サイクルへの供給対策をはじめ，来年の六戸変電所の新設など電力系統の増強が計画されている。こうして，東北の，そして日本のエネルギーの将来を決する〝でかい仕事〟を追い続ける上北制御所は，雪をも溶かす熱気で一杯だ。

62年度のスローガンの一つは，〝マーケットインに立った事故未然防止と早期復旧〟。大きなロマンの根底には，お客さまへのサービス精神が流れている。　（小山田）



▲日勤者が立ち合っての１直，２直間の引き継ぎ。ピーンと張り詰めた空気が，こちらにも伝わってくる。



所長
杉田　芳徳

電力立地，新たな営業開発等の課題を抱え，北部の電源拠点として電力の安定供給に努める。９年間継続中の無事故，無災害を更に伸ばす。また，巡視点検の精度向上，業務改善提案の積極的推進，有能な後継者の育成をめざしたい。

（横顔）当所に来て満２年，単身赴任の味も出た。仕事では，豊かな知識と経験を基に所員との対話を大切にした指導に心している。また，音楽や，文学を愛する心の優しさが，職場に反映されている。



副所長　遠藤　実

ほがらか度110％。豊かな知識と経験で業務を的確に処理。特に安全管理面は万全。読書家で時事，経済，歴史の知識の豊かさはさすが。最近は史跡や園芸に傾注。飛行機を語ると熱気を帯びる。



電力系統担当主査　津島　哲

豊富な経験とパイタリティーで管内電力系統の運用にその手腕を遺憾なく発揮。業務のＯＡ化や若年層の育成など先取のスキルはライセンス級。下戸だが酒席は欠かしたことがない。



運転長　工藤義満

運転業務一筋40年の大ベテラン。豊富な経験と知識は聞く者をして感服させる。物静かな語らいの中にも一本筋の通った生き方は他の範。余暇には山菜取り等奥様と二人の充実した毎日を過ごす。



太田正徳

入社３年目を迎え業務に益々意欲を燃す若手のホープ。おおらかで笑顔を絶やさぬ好青年。夏は釣りやドライブ，冬はスキーで大忙し。最近磯釣りで大物に釣られたとか。エピソード多々あり。



山形友義

愛称「山ちゃん」。入社４年目を迎え旺盛な意欲で業務に取り組むファイトマン。スポーツ万能。特にバトミントンと卓球はレギュラーで，向かう所敵なし。引手あまたのうれしい悲鳴。



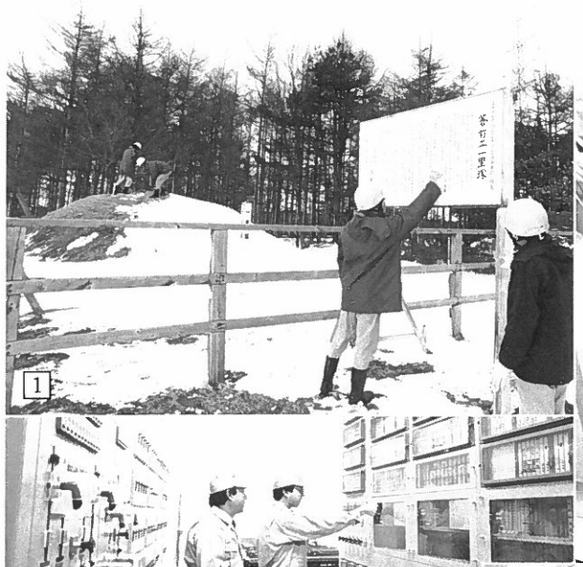
工藤　真

不言実行，仕事への粘りと手先の器用さは所内随一，津軽のド根性まさにここにあり。大の旅行好きで日本中狭しとロマンを求め想い出を綴っている。一人静かに酒をたしなむ等風流な一面あり。



三上　悟

デジタル・オーディオ技術に関しては右に出る者なし。マイコンを自作する程の腕前。入社５年を迎え常に問題意識を持ち業務処理に改善提案に取り組む実力派。最近クラシックに凝っている由。

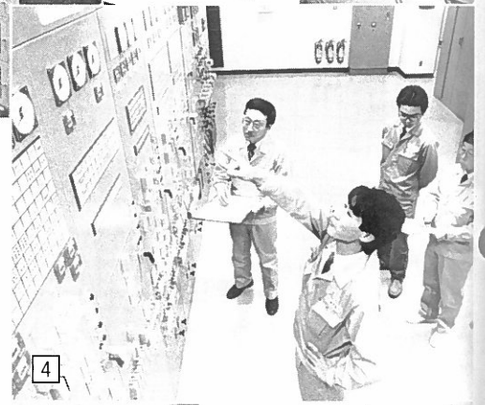


1

2



3



4



5

1　うっすらと雪化粧した「蒼前平一里塚」，この貴重な文化財の手入れは，当制御所が行っている。

2　275 KV マイクロ・キャリアリレーのチェック。通常は自動点検だが，月数回の手動点検でがっちりフォロー。

3　系統に悪影響を及ぼす高調波を詳細に分析する「高調波プログラム」を開発。この他にも独自のプログラムが開発され，ＯＡ効率化への取組みが盛んだ。

4　月に一度の事故想定訓練。変電所の母線事故が発生したという想定で，緊迫感は本番さながら。

5　機器制御用エアーバルブの開閉状態表示札を簡易に，使い易いものに改良した「バルブ開閉器表示札」をアクト21で開発。マグネット式で，両面が青・赤に色分けされたアイディア商品。



運転長　森　武

指令所時代の系統運用技術に増々磨きがかかり充実の昨今。温厚誠実な人柄で若年層の信望も厚い。「日本酒の森さん」と呼ばれる程の日本酒党。興ずれば演歌の数曲は出たとの伝説あり。



運転長　和田　保

発電所が無人化された日，かっての山間地での苦労談は迫力があり，これぞＯＪＴの見本。目下ノウハウの継承と後継者育成に全力投球。子息３人の成長を楽しみに今日も熱燗がうまい。



運転長　小坂清輝

温厚・円満な人柄と豊かな経験を確かした業務処理の的確さは定評。各種ＷＧメンバーとして余念なく，社外でも厚い人望。人生若年層育成に就職に関する人生全て楽しくが信条。



運転長　石屋忠夫

運転，保修，系統運用の３部門の経験を活かし，気力まさに満々。職場レクチャー委など幅広く活躍中。この人をさしおいて漁を左右語るなかれ。野球は左右自在のサウスポー。子息２人の良きパパ。

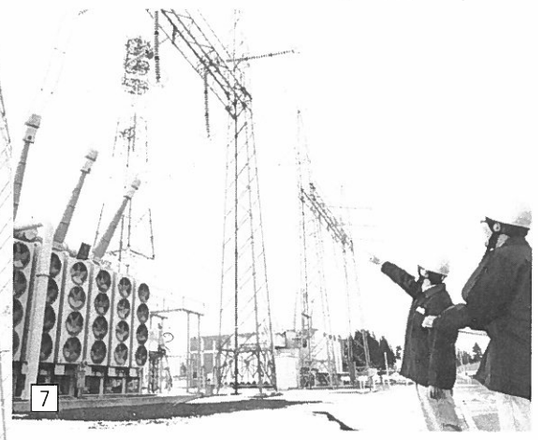


運転長　山口隆芳

誰もが認める向学の仁。運転，保修の業務に幅広く活躍。専門部時代に電検２種に合格し，今や理論と実務一体となった業務に邁進中。卓球は相当の腕前で内対抗のベントゲッターでもある。



6



7

6　サーモガンでヒンジ部（導電部の回転部分）の温度を測定し，異常な過熱が生じていないかチェックする。

7　上北変電所構内を入念にパトロール。背景は275 kV 超高圧変圧器。



8

8　～10　古間木変電所の本館改修工事のため，仮設変電設備への切り換えが行われた。写真は順に，仮設ケーブル，リレー，移動用キュービクルをチェックしているところ。

作業のタイムリミットは午後１時。早朝から大勢の電力マンがひしめき合う現場は緊張感と熱気であふれる。



杉山康雄

事業堅調で段全の工事課で実力を発揮。中型運転所がけたなく発揮。中保修を手にして今や押しも押されぬ務として存在。囲碁は公弥２段実力３段以上の腕前で女社大会にも出場。２良きパパでもある。



大高康秀

今年３月めでたく独身生活卒業。人も羨む美人の奥様と甘い生活を満喫中。管内設備の運転にかけてはNo.１。やさしさを内に秘めた不言実行型の中堅。読書家で目下「戦艦大和」読破に奔戦中。



北山孝春

ナウイ感覚No.１。ジャズダンスや演劇を愛好し多ラストはプロ顔負けの多才派。目下入社６年目若手のトップを担って業務は勿論，青年部活動にも活躍中。原子力リーダとしても力量発揮。



9



10



11 安全旗を掲揚し，今日一日の安全を誓い合う。

12 昼休みの一時，倉庫で卓球を楽しむ。体が暖まるまでが大変だ。

13 アクト21「インター北上グループ」。１m近く雪が積もる構内で，通路の目印となるポールを開発中。

14 アクト21「もんじゅグループ」。積雪量標が見やすいように，機器自体の改良や設置場所の検討を行なっている。

15 微小な電圧変化を増幅して，電流・電圧の状態を監視・記録する「入・出力変換装置」。アクト21で開発。

16 多雪地帯の当地では，冬場の作業環境はひときわ厳しい。身が引き締まる寒さの中，気合いを込めてタッチ・アンド・コール。これから春を迎えるまで，長い〝雪との闘い〟が始まる。

電力需給 10月分

電力需要

10月の販売電力量は，37億9,000万kWh，対前年比103.8%の実績となった。

これを用途別にみると，電灯は新型家電機器の普及拡大などにより，対前年比105.3%の堅調な伸びとなった。

一般電力は，業務用電力が商店の営業時間の延長などから対前年比109.3%，また小口電力が機械などの好調により対前年比105.0%と堅調な伸びとなった。

こうしたことから，一般電力計では対前年比105.8%，また電灯・一般電力計では対前年比105.6%の実績となった。

大口電力は，パルプ・紙が一部お客さまの自家発増設の影響などから前年を大幅に下回る実績となっているものの，機械，セメントの高い伸びに加え，鉄鋼も堅調な伸びを示したことから，大口電力合計では対前年比100.7%となり，一昨年10月以来25か月ぶりに前年を上回る実績となった。

＜表－１＞　62年10月の需要実績

（単位：百万kWh，%）

種別＼区分		62/10 実績 (A)	61/10 実績 (B)	前年比 A/B (%)	62/10 計画 (C)	計画比 A/C %
電灯		1,023	972	105.3	1,020	100.4
電力	業務用	514	471	109.3	510	100.9
	小口	815	776	105.0	816	99.8
	大口	1,332	1,323	100.7	1,297	102.7
	その他	106	110	96.3	115	91.9
	計	2,767	2,680	103.2	2,738	101.1
電灯・電力合計		3,790	3,652	103.8	3,758	100.9

大口電力の業種別前年比（%）

紙・パルプ	74.0	化学	98.5	セメント	114.8
鉄鋼	105.0	非鉄	93.9	機械	110.9

供給力

10月の発受電電力量の合計は，40億4,000万kWhとなり，計画比では100.7%，対前年比では101.9%となった。

(1)　自社水力

水力の発電量は，降雨が少なく出水率が68.9%の渇水となったため，計画を１億8,100万kWh下回る４億1,100万kWhとなった。

(2)　自社火力

火力発電量は，渇水と需要増などの影響から，計画を２億3,900万kWh上回る21億600万kWhとなった。

(3)　自社原子力

女川原子力発電所１号機の主変圧器の負荷時タップ切換装置の点検・補修を実施したため，発電量は計画を6,900万kWh下回る３億1,100万kWhとなった。

(4)　他社受電

他社受電は，火力が渇水と需要増の影響により増加したものの，水力が自社同様渇水となったことから，計画を3,000万kWh下回る７億3,400万kWhとなった。

＜表－２＞　62年10月の供給力概要

（単位：百万kWh・%）

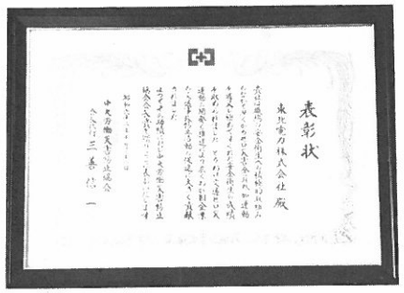
種別＼区分			62/10 実績 (A)	61/10 実績 (B)	前年比 A/B (%)	62/10 計画 (C)	計画比 A/C (%)
自社	水力	自流式	390	457	85.3	561	69.5
		貯水式	19	9	211.1	22	86.4
		揚水式	2	0	—	9	22.2
		計	411	466	88.2	592	69.4
	火力		2,106	2,353	89.5	1,867	112.8
	原子力		311	390	79.7	380	81.8
	合計		2,828	3,209	88.1	2,839	99.6
他社受電			734	790	92.9	764	96.1
融通			484	△31	—	424	114.2
揚水用			△6	△2	300.0	△16	37.5
発受電合計			4,040	3,966	101.9	4,011	100.7
総合損失率			6.2	7.9		6.3	
出水率			68.9	79.1		100.0	

中央労働災害防止協会会長賞受賞

全国産業安全衛生大会「ゼロ災運動集会」で齊藤副社長講演

当社は，去る10月21日，全国産業安全衛生大会の表彰式に齊藤副社長が出席され，中央労働災害防止協会会長賞を受賞した。この賞は，産業安全に大きな実績と貢献を果たした企業に贈られるもので，昭和60年１月以降２年９か月にわたって交通労働災害ゼロを継続していること，当社が作成した「ゼロ災運転マニュアル」が全国的な交通安全指導書のもとになるなどの活動が評価されたものである。

受賞後，齊藤副社長は同大会の分科会のひとつであるゼロ災運動集会において，1,000人の出席者を前に記念講演を行い，深い感銘を与えた。以下にその要旨を紹介する。





■はじめに

只今，ご紹介いただきました東北電力の齊藤です。

全国産業安全衛生大会という，栄ある席でお話できることを大変光栄に思っています。

また，昨日行われました表彰式におきまして，はからずも会長賞という，身にあまる賞をいただき，本当に名誉なことと感激しています。

しかし，本当に当社が，この立派な賞に値しているのかと，いささか心配しているのが偽らざるところです。

■ゼロ災運動への参画

思い起すと，当社が直接的に，「中央労働災害防止協会」（中災防）のご指導をいただき始めたのは，災害の減少に躍起となっていた昭和48年頃です。

当時は，年間30人以上の社員が労働災害で怪我をしており，色々な制度や体制の整備をはかりながらもなかなか災害を減少させることができない状態でした。

決め手となる施策もなく，藁をもつかむ気持ちで，中災防が提唱したばかりの「ゼロ災運動」に参画したわけです。

このときは，各現場の事業所が独自に参画したものであり，その当時現場には，何とか災害をなくそうとする切実な願いとエネルギーがあったことが，うかがわれます。

それ以来の中災防とのおつき合いであり，この間，田辺先生，鎌形先生をはじめ中災防の諸先生から大変なご指導ご協力をいただき，今日

に至ったわけです。

お陰様で現在，交通労働災害は60年１月以来２年９か月間ゼロを継続しており，死亡災害も７年間ゼロ，そして他の労働災害も，明10月23日で丸１年間ゼロと，私どもの会社としては，今までで一番充実した安全実績を，保てるまでになったところです。

■「安全と衛生」はすべての基本

当社はこれまで，「人間尊重」をその経営理念としてきました。

この「人間尊重」とは，従業員一人ひとりを大切にするということであり，これを安全衛生の面から言えば「安全と健康」をすべての基本に据えるということです。

しかも，これは仕事の上ばかりでなく，24時間を通して，家族も含めてということです。

当社では，この「人間尊重」という理念のもとに，具体的な安全衛生施策を実践しているわけですが，実践するにあたってさらに，２つの大きな考え方をもっています。

■「ライン管理」と「自主管理」

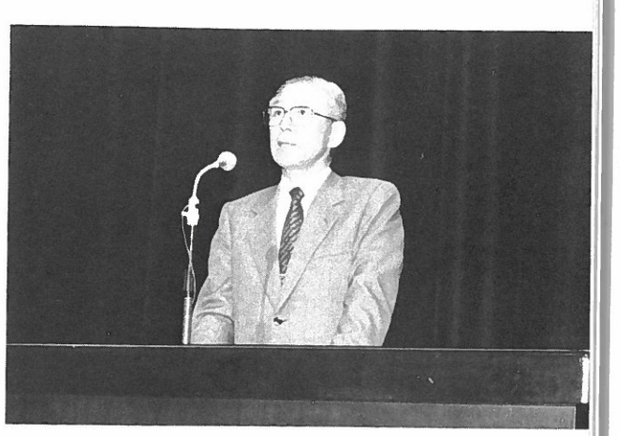
そのひとつは「ライン管理」ということです。

これは，会社の組織系列を通し，管理監督者が責任をもって行うべきもので，社内における制度，体制あるいは規程基準などがこれにあたるわけです。

もうひとつは「自主管理」ということです。

これは従業員一人ひとりが自らの責任のもとに自主的に実践するものです。

ゼロ災活動というのは，この自主管理にあたるものと思います。もちろん「ゼロ災活動」を



導入するまでは，会社もそれ相応の指導なり，動機づけを行いました。

この「ライン管理」と「自主管理」の２つの考え方が，丁度，縦糸と横糸の関係で調和がとれたとき，はじめて安全が一枚の布として完成されるのだろうと思います。

縦糸をライン管理といたしますと，この縦糸をピンとはるということは，経営の意志を示すことであり，かつ，信頼のもとになるものだという意味合いをもつと考えます。

また，織物は横糸によってその個性がでます。図柄，色合い，肌ざわりなどが織物の個性となりますが，それには横糸が大いに関係するわけです。

自主管理という横糸はライン管理という強い縦糸によってその個性が生かされ，そのことによってはじめて織物全体が個性をもってくるということが言えるのではないかと思います。

ところが，ともすると「自主管理」というところにウエイトが置かれがちになります。

災害が発生すると，単に「本人の不注意」と片付けてしまうのは，まさにこのことです。

これでは，安全は確保されないわけであり，

やはり会社の責任で行なうべきものはきちんと行うという「ライン管理」が徹底されなければなりません。とくに経営に携わる者はこの点を十分認識することが必要です。

「ライン管理」がきちんと行われていてこそ，はじめて従業員も「自分達でやろう」という気持ちになるのだろうと思います。

■「継続は力なり」

このような考え方のもとに，私どもはこれまで安全衛生の施策を進めてきました。

また，多くの方々に様々な形でご指導もいただいてきました。

とくに，交通安全の関係につきましては，「鈴鹿サーキット交通教育センター」に大変お世話になってきました。

交通教育センターとは昭和46年からのおつきあいです。当時はバイクの安全運転を通して，作業安全のあり方，安全の大切さなどを身につけてもらうために，職場のリーダーを派遣したのですが，現在は交通戦争の時代でもあり，安全運転技術そのものについてもご指導をいただいているわけです。

この研修は，昭和46年以降一度も途絶えることなく現在にいたっています。

これまで派遣したリーダーは2,300名にのぼっております。この数は当社の従業員の20%近くの規模であり，またバイクに関係ある職場数で考えるとその半数以上にも相当します。そして，このリーダー達が職場で果たしてきた役割は，はかりしれないものがあります。

現在の私どもの安全実績を考えた場合，中災防の「ゼロ災運動」とともに，この鈴鹿での研



修が大きな礎となっているものと判断しています。

そして，経営が，本当にこれは良いことだと判断したことについては，自信をもって継続させることの大切さを今，身にしみて感じているところです。

まさに「継続は力なり」ということです。

現在各職場では，ゼロ災活動を積極的に進めています。自分達で様々な手法を考え出しながら真剣に取り組んでいます。

本当に一生懸命やっていると思います。

そういう意味から，今回の受賞はまさに，従業員一人ひとりの努力に対するものであろうと考えています。

一方，これまで，色々な安全施策を進めてくることができたのは，何と言っても労働組合の理解と協力があってのことです。

当方の東北電力労働組合は「安全・衛生」ということについても大変真剣に取り組んでおり，安全衛生委員会をはじめ，あらゆる場において建設的なアドバイス，協力をもらっています。

パートナーシップの大切さをあらためて認識するとともに，この関係を維持しながら，さらにレベルの高いゼロ災に向かって進んでいきたいと思っています。

先程，業務上での災害ゼロということについてお話しました。しかし，残念ながら業務外の，マイカーでの事故はまだ散見される実態にあります。

業務上であっても，業務外であっても「安全と健康」が損なわれてはいけないわけであり，これは家族も同様です。そういう意味から，この受賞を契機に，「すべての災害ゼロ」「24時間の災害ゼロ」に向かって新たな気持ちで進んで参りたいと思っています。

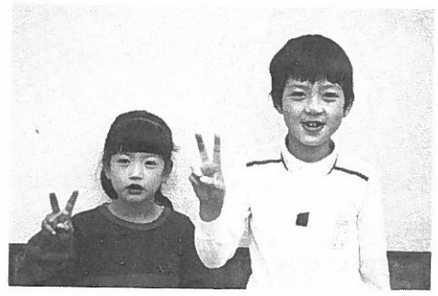
最後に，これまで私どものために，ご指導いただきました中災防，鈴鹿交通教育センターの諸先生をはじめ，関係皆様に対しまして重ねてお礼申し上げるとともに，ご出席の皆様のご発展を心から祈念しまして，私のお話とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

お父さんへ

お父さん気をつけて

いわき営業所配電課配電二係
猪瀬三夫さんの長男
祐樹くん（小３）



お父さんが大好きな祐樹くん（右）

ぼくのお父さんは，花が大好きです。

日曜日になると，花に水をやったり，ていれをします。ベランダにある花は，ランという花で，とてもだいじにそだてています。きれいな花がさくと，お父さんはにこにこしています。妹は，その花を幼稚園にもっていくと言うと，お父さんはすこしがっかりしています。

ぼくのお父さんのすきなところは，いろんなところにつれていってくれたり，いろいろなものを買ってくれたり，土曜日はキャッチボールやサッカーをして遊んでくれたりしてくれることです。ときどきおこることもあります。でも，やさしいお父さんです。

注意してほしいことは，酒をのみすぎないことと，車を運転してぶつからないこと，仕事で電柱からおちないように気をつけてほしいことです。

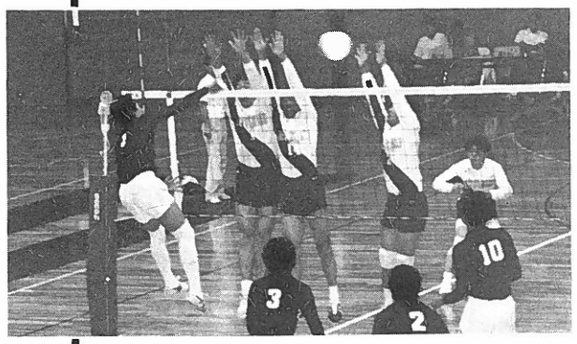
お父さん毎日がんばってください。

地域の中で…。

ミスターバレーボールが行く

●須賀川営業所配電課

山寺　浩一さん



三枚ブロックを破る山寺さん
（手前スパイクするのが山寺さん）



●山寺さんの横顔

元全日本男子バレー部の大古選手の大ファンだという山寺さん。

全社大会4回，全電力大会6回出場という輝かしい記録を持つ，まさに「ミスターバレーボール」といえる存在です。

バレーボールといえば，今や小学生からご婦人の方々まで幅広い年齢層に人気を博しているスポーツです。

そのバレーボールに魅せられ，幾多の優勝をものにし，地域では「ミスターバレーボール」と呼ばれているのが山寺さんです。

現在，山寺さんは，「須賀川ファミリークラブ」というチームに所属しています。

このチームは，須賀川青年学級の中からバレー愛好者たちが集まって結成したチームで，小学校の教員や郵便局員などさまざまな職種の人たちが活動しています。

山寺さんは，昨年までそのチームの会長として，また須賀川市バレーボール協会の協議委員長，常任理事として活躍してきました。市内の大会等では，チームのエースとして，そして大会審判員として活躍しています。

クラブの練習は，火曜日と木曜日の週2回，午後7時から9時までの2時間です。仕事を終えた後でも元気いっぱいの山寺さんは，チームの仲間からは〝怪物〟といわれるほど練習熱心です。

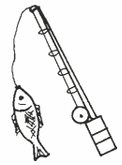
「自分が練習をしないで後輩に押しつけることはできない」と語る山寺さん。常に後輩の育成や須賀川市全体のバレーボールのレベル向上を考えて活動しています。

そんな山寺さんの今後の抱負は，「若い選手たちには負けてはいられない。30歳まではエースとして頑張る」と日夜練習にも熱が入ります。

（阿部誠著）

われらサークル仲間





三沢営業所・東北電力フィッシングクラブ

「生きがいを求めて」

三沢営業所では，職場内の生きがいと健康増進などをはかるために，コミュニティーの輪を広げる運動の一環として，昨年11月「ＴＤＦＣ」東北電力フィッシングクラブを結成した。

当クラブは，釣歴十数年の大ベテランからまったく釣竿を手にした事のない素人まで，釣をこよなく愛する者の集まりで，「釣った魚は成仏のため，すべて食す」をスローガンとして掲げ活動を展開している。

三沢営業所管内には，絶好の釣場が多い。

三沢魚港，六ヶ所村，小川原湖など，カレイ，アイナメ，ソイをはじめ釣れない魚はタイぐらいで，一年中，朝から夜中まで楽しめる。「ＴＤＦＣ」の太公望たちは，日夜仕事に精を出し，大物を夢見て休日をまちかまえている今日このごろである。

わがクラブの特徴は，釣大会を開催する場合かならず携帯する物がある。大型クーラー（ビール，氷入れ），マナ板，包丁，ショウ油，割バシ，紙コップ，小皿，ワサビ，あみ焼用あみ，炭，これらに加え，会員が釣具店，他釣クラブから情報を入手し作成した，配電マップならぬ釣場マップである。以上の物を常に携帯して行く事によりスローガンである「釣った魚は成仏のため，すべて食す」が達成できるわけである。

釣った魚をその場でおろし，食べる，特に大物を釣り，生きたまま刺身にする「生き造り」，料理屋で食べると何千円というしろ物であるがこの場所では0円である。

また，回りを見わたすと360度全て自然である。新鮮な海の幸と自然を一度に味わえるまさに生きがいを感じる時であり，都会では味わえない，偉大な田舎だからこそできることである。〝偉大な田舎に乾杯〟これがわれわれの合言葉である。

釣キチのあなた，生きがいを感じたいあなた，ぜひ一度三沢営業所へお越し下さい。

「ＴＤＦＣ」会員が心からみなさんを歓迎いたします。

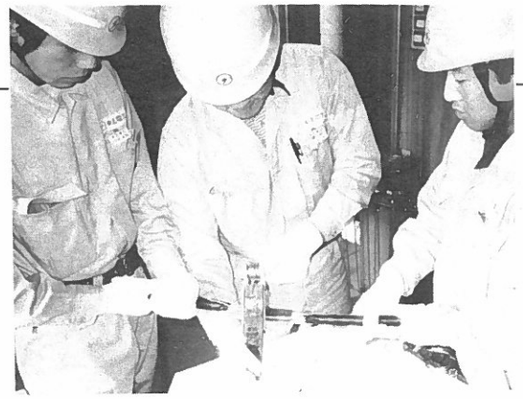
（福長　保　記）

ACT・21―私達の職場小集団活動

スクラム・ダッシュ



能代営業所
ニッ井出張所
〝あしの会〟



予想される効果の検討

後列左から
小林さん（リーダー）
浅井さん（サブリーダー）
前列左から
字瀬さん
畠山さん
乳井さん

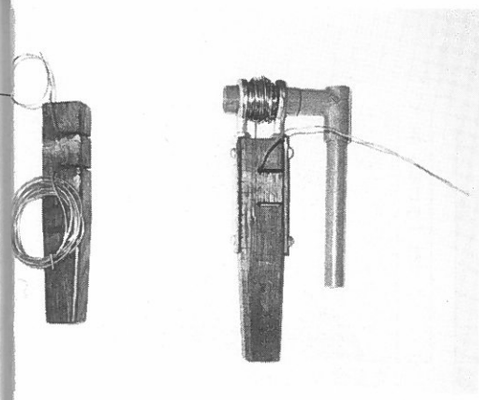


小さな〝物〟から

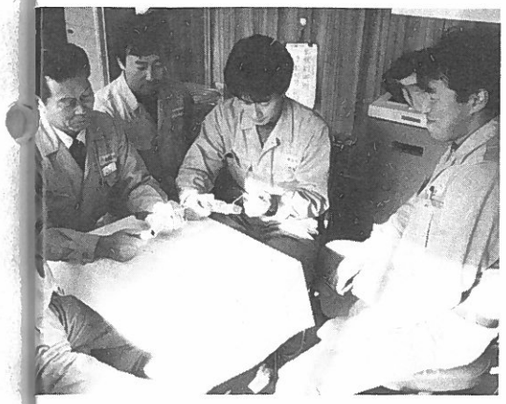
私たちのグループ

わが職場は，天然の秋田杉で有名な二ッ井，藤里両町の保守，地域対応に全所員５人が日夜取組んでおります。

その傍ら「人間は考える葦である」。目標達成のため常に行動する足。相互啓発で活力ある明日をめざす。「葦」，「足」，「明日」，三つの「あし」をモットーにグループ発足以来，「あしの会」という名のもと小さな問題も全員が「あし」となり大きな成果へと活動を展開しております。



左　現行巻付ジョイント器　　右　試作品



問題点の検討中

見なおそう!!

活動の動機

最近，便利な工具なのに巻付ジョイント器を使用する人が少なくなってきたと思われます。そこで，私たちはこの巻付ジョイント器をさらに改良し，使い易く使用頻度の高いものに仕立てようと活動を開始しました。

活動の状況と成果

現状の大きな問題点として，ジョイント線が繰出し部でからまりやすいこと。100㎟の電線に必要なジョイント線は８ｍもあるので，使用が難しいことなどがあげられます。

そこで，この問題点を解決するために，巻付ジョイント器に糸巻きのようにジョイント線を巻くことにしました。

この方法にすると，

①ジョイント線が，からまない。

②数ｍ巻くことができるので，太物電線（特に変圧器の２次側）に十分対応できる。

③また，細物電線になると，１本のジョイント線で数個所接続することができる。

という利点が予想されます。

そこで，実際に試作品を作り，使用してみたところ，電線のからみがなくスムーズに巻き付けすることができました。また，巻付ジョイント器にジョイント線を巻く時は，ハンドルで巻くようにしたので，簡単に巻くことができます。予想以上の成果があり，全員満足しております。

今後の取組み

今後，完成品を作るにあたり，まだまだ改良点があると思われます。まず，小型化，材質などです。そして，大きな課題として，ジョイント線の断面を中華まんのような形にして巻き付けすることができたらと，全員知恵をしぼり出しています。そうすることにより接触面積が多きく，しかも巻き付け回数を減らすことができ，作業時間の短縮，資材費の軽減，電気の安定供給につながります。

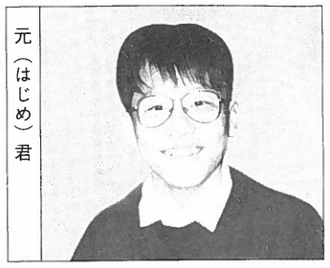
今回の活動は，小さな問題からはじめて，大きな問題をとらえることができました。今後は，これをさらに大きな成果とするため，私たち「あしの会」全員一丸となって活動していきます。



岩手支店営業・広報部
撮待　忠一さん一家


春菜（はるな）ちゃん

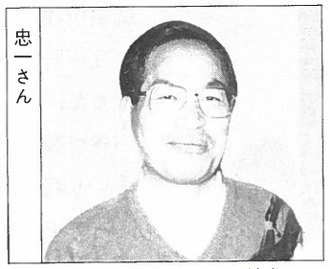
笑顔の可愛いお茶目なお嬢さん。将来はピアノの先生になりたいとのこと。クラスメートの面倒見も良く頼りになるお姉さんタイプ。


元（はじめ）君

生徒会役員に選ばれてからは，それまでの生活態度が一変し，積極的になったとか。部活は剣道部に所属し，各種大会で活躍中。


牧子さん

数年前までママさんバレーの選手で，お父さんを子守りに仕立てて大活躍でした。ユーモアに富み，いつまでお話しても飽きない良妻賢母。


忠一さん

頼まれると嫌と言えない性分で，社誌に登場することこれで3度目。家庭に居ても職場に居ても明るいムードメーカーです。



クリスマスプレゼント

枕許に自転車？

忠一　そろそろクリスマスだけど，春菜はサンタさんに何をお願いするの？

春菜　自転車!!

牧子　自転車は誕生日じゃなかったっけ。

春菜　自転車は高いからサンタさんにたのんだ方がお母さん助かるんじゃないの？

全員　……（絶句）。

元　でもな春菜，朝，枕許に自転車が置いてあったらと考えるとちょっとこわいよ。

春菜　本当だね。自転車持って家に入れないもんね。やめるかな。（他，笑いが止まらない）

牧子　他に何がほしいの。

春菜　冬用のズボンとかトレーナーとかが欲しいし，毛糸を編むおもちゃの機械もほしい。それとピアノのカセットもほしいな。

牧子　毛糸は自分で編めるんだから手編みの方がおもしろいよ。

春菜　やっぱりカセットがいいな。カセット。

ぼくはいらない！

忠一　春菜は決まりだね。じゃ元は？

元　ぼくはいらない。

忠一　えっ？なんでだ。

元　だってたのんだって買ってくれないっけもん。（最近，交換条件で約束した物をまだ買ってもらっていない）

牧子　だからサンタさんにたのむんでしょう。

元　ほしい物だったらいっぱいある。ウォークマンにベッドに，スキー。

忠一　ベッドだと部屋がきれいになるのか!?

元　もちろん。でもいらない。

忠一　ウォークマンっていろいろあるんだろ？ラジオつきのとか，テープだけのとか。

元　ラジオつきのは高いよ。

忠一　ウォークマンもいいけど，あれは夢中になったら大変だよ。勉強しないでラジオばっかり聞いてるようだったらダメだな。

元　大丈夫だって。

牧子　自分でけじめをつけれるんだったらね。

元　今年こそスキーを買い替えないと，去年靴が小さくて足が痛かったよ。

牧子　スキーは自分の貯金で買って下さい。

元　じゃウォークマン。

クリスマスまで待てない

牧子　ところでお父さんは何をたのむの？

忠一　オレはクリスマスまで待てないな。結婚式に履く靴がほしいんだ。

牧子　一か月早いクリスマスあったらいいね。

忠一　そうそう，忘れるところだったけど（？）お母さんは何をお願いするの。

牧子　欲しいものは沢山あるけど，貴方たちの欲しいものが届けばそれで満足よ。ボーナスにも限界があるから……。（父顔色なし）

忠一　サンタさんも予算の都合があってプレゼントの内容に変更あるかも知れないのでそのことを覚えていてほしいなあ。それでは本日の会議を終了する。（サンタクロースがいると信じている娘のため，内容に一部不明の点があったことをお詫びいたします）



レポーターひとこと

初めておじゃましましたが，とても明るい暖かいムードの中で，時間は"あっ"という間に過ぎてしまいました。奥様手作りのお人形や壁掛，丹精に育てられたグリーンが所狭しと並び，ほのぼのとした雰囲気が，娘さんの名前のとおり常春の国を思わせるようでした。

（レポーター　坂井　幸子）



フレッシュ・トーキング
Fresh Talking

職場の中堅としてがんばろう！



高橋和司さん

昭和41年12月７日，仙台でうぶ声をあげる。現在，築館営業所配電課に勤務。栗原郡の配電線保安官として，厳しい環境の中，日夜業務に従事している。

基礎体力をつけている段階？

高橋(伸)　お互い入社して３年目になり，会社にも慣れてきた頃ですが，入社当時を振り返って一言どうぞ。

高橋(和)　入社１年目は，手がけることすべてが難しく，失敗の連続でした。勉強で徹夜したこともしばしば……。

高橋(伸)　はあ？今なにか言いました？（笑）ところで和司君は，体格がいいけど，学生時代はどのようなスポーツをしていたのですか？

高橋(和)　高校時代は，ラグビー部に所属していました。現在も宮城支店ラグビー部でトライをねらっています。

高橋(伸)　女性にトライするのは，いつかな？

高橋(和)　まだまだですね。基礎体力をつけている段階です。

最後は体力？

高橋(伸)　僕なんか，とにかく楽しい女性がいいけど，和司君は，どんなタイプの女性がすきかな？

高橋(和)　タイプね～？何でも気軽に話せる人，何でも話してくれる人かな？

高橋(伸)　なるほどね～。予想外な答えです。和司君の私生活を見ていると，顔・スタイルへの過激な注文をすると思いましたが……。

高橋(和)　まあ最後は体力ですよ。（笑）

いざという時，たよりになる男に！

高橋(伸)　今，熱くなれるものは？

高橋(和)　そうですね，野球，バレーボールなど色々なスポーツをやっていますが，やっぱりラグビーの試合では熱くなります。度が過ぎたこともしばしば。

仕事面では内勤をしているよりも，直営工事をしているときですね。特に事故復旧の際は配電課の一員として自覚と誇りが湧いてきます。

高橋(伸)　さすが和司君。決めるところは決めましたが，日頃思っていること，何かありましたらどうぞ。

高橋(和)　1．遊ぶときは，大いに遊ぶ。
2．休むときは，十分に休む。
3．仕事は，それを仕上げることに専念すること。

高橋(伸)　なかなかの名言ですね。そろそろ時間ですので，今後の目標などあれば簡単に教えて下さい。

高橋(和)　いざという時にたよりになる男になること。

それにはかなりの努力が必要ですけどね……。

高橋(伸)　最後に筋書き通りにまとまったところで，お互いこれから，職場の中堅として頑張って行こうじゃないか。

今日はどうもありがとう。



聞き手・高橋伸介さん

昭和42年２月24日生まれ，ロマンチストのＡ型魚座。現在築館営業所営業課勤務。スポーツは高校時代野球をしており，自称〝支店一の名マネージャー〟として活躍している今日このごろです。





昭和62年10月

退職者

＜おわかれ４つのアンケート＞
1. 入社年月日と入社時会社名
[redacted]
3. 在職中の思い出
4. 後輩にひとこと

1. 昭和22年７月１日（東北配電）
[redacted]
3. 40年代の販売活動，50年代の新料金業務移行作業を良き上司，同僚の理解のもとで成し遂げたこと。
4. いつでも，あなたの職場が求めている社員となる努力を。そして心身ともに健康で，希望に生きて下さい。

社長室付

大　場　重　昭



1. 昭和21年10月７日（東北配電）
[redacted]
3. 昭和21年10月入社して12月末頃まで戦時中から停止していた矢別発電所復旧工事に従事したことなど。
4. 健康であることが一番大切です。「健康一番」これです。

青森制御所付

花　田　志　郎



1. 昭和28年５月９日（東北電力）
[redacted]
3. 昭和46年１月下北線154kV昇圧後第１回目の雪害と，47・１雪害による十和田東線鉄塔倒壊事故。
4. 明るく活力ある職場はなんといっても人の和がベースであると思います。相互信頼を大事にしましょう。

青森支店付

山　谷　　清



1. 昭和23年２月１日（東北配電）
[redacted]
3. 最後に未経験の営業課受付係に勤務できたこと。
4. 東北電力の誇りを胸に，社業と地域発展のため，健康に留意して頑張って下さい。

八戸営業所　営業課　受付係

三　上　　茂





水沢営業所　配電課付

阿　部　吉　雄

1. 昭和18年４月１日（東北配電）
[redacted]
3. 44年有余の間，勤務ができたことです。入社当時，電柱運搬等に，大八車（荷車）を引いて運搬をしたこと。
4. 健康な体は宝です。安全を第一とし，健康に留意し，会社の発展のため同僚との和を大切に頑張ってください。



盛岡制御所付

中　澤　仁右エ門

1. 昭和21年10月10日（日本発送電）
[redacted]
3. 昭和25年，発電所運転中，亀裂のためコンクリート管が大破し，徹夜で復旧作業に従事したこと。
4. 健康と安全を第一に，明るい職場と楽しい家庭を築いて下さい。



大船渡営業所　庶務課付

尾　形　喜三男

1. 昭和22年12月１日（東北配電）
[redacted]
3. 走馬燈のごとく40余年変電所を振り出しに配電・営業・庶務課と良き先輩同僚に恵まれて務を終えた。
4. 「喉元過ぎれば熱さを忘れる」の譬えどおり最近事故発生が多発の傾向にあり，各人がゼロ災運動の原点に戻って真剣に取りくんでほしい。



大舘営業所　地域サービス課付

長　岐　耕　三

1. 昭和20年12月19日（東北配電）
[redacted]
3. 資材の調達に苦労しながら未点灯部落に電気を供給して地域住民から感謝されたこと。
4. 大変お世話になりました。健康と安全を第一とし，新時代に向って自己研鑽し，地域社会の発展に努力して下さい。



秋田支店付

鈴　木　義　映

1. 昭和22年６月１日（東北配電）
[redacted]
3. いい時代に生を受け，いい仕事に巡り合えた14,803日，数々の出来事が皆さんの顔と織りなして思い出されます。ありがとうございました。
4. 仕事や遊びの中で議論・挑戦・没頭を繰り返しながら，已が生きている実感や証しをつかみたいものです。



秋田支店付

大久保　忠　雄

1. 昭和22年１月23日（東北配電）
[redacted]
3. よい職場環境の中で業務ができ幸せでした。八郎潟干拓事業負担金工事等の営業，立地業務で難航したこと。
4. 健康と安全第一，創造性をもち続け，社会の変化に対応してください。



秋田営業所　地域サービス課付

加賀谷　　潔

1. 昭和21年11月１日（東北配電）
[redacted]
3. 40年間のすべてが思い出となっておりますが，特に入社当時の盗電調査がひとしおでありました。
4. 安全と健康に留意し，明るい活力ある職場づくりに努めて下さい。

1. 昭和23年３月１日（東北配電）
[redacted]
3. 過ぐる日すべて思い出にして，特に限定した思い出もありません。大変お世話になりました。
4. その時，その場で結果にとらわれず全力をあげること。

仙台営業所　料金課付

大　友　孝　雄



1. 昭和18年９月１日（東北配電）
[redacted]
3. 株式業務の機械化移行，台風による水害，雪害，地震など災害時における食糧調達で苦労したこと。
4. 「真・心・信」私の好きな言葉を贈り，皆さまの健康とご多幸をお祈り申し上げます。

岩沼営業所　庶務課

四　釜　文　次



1. 昭和22年７月１日（日本発送電）
[redacted]
3. 40年を振り返ると長いようで短いものでした。それぞれの職場で良き上司，先輩，同僚に恵まれ仕事をしたことが思い出です。
4. 家族ともども健康であることが第一です。長い間お世話になりました。

宮城支店　立地用地部

井　上　　禎



1. 昭和20年５月１日（東北配電）
[redacted]
3. 良き上司，先輩，同僚に恵まれ，楽しかったこと，苦しかったことすべてが，懐しい思い出です。
4. 健康と安全に留意され，人の和を大切に明るい職場づくりに努めて下さい。

古川制御所

佐々木　孝　男



1. 昭和30年11月１日（東北電力）
[redacted]
3. 在職32年それぞれの勤務地で良き上司，先輩と後輩に恵まれ，健康で楽しく勤めることができたこと。
4. 心身の健康と安全に留意され，人の和を大切にし，明るい職場と家庭を築いて下さい。

古川制御所付

芳　賀　義　明



1. 昭和23年９月23日（東北配電）
[redacted]
3. 蔵王出張所に勤務中の昭和58年２月21日，蔵王温泉の観光ホテルの火災で不眠不休で日夜対応したこと。
4. 明るい職場と明るい家庭を築くと共に，一人ひとりがデベロッパーとなり販売電力の増大に努めてほしい。

山形営業所　配電課　作業係付

安孫子　礼　悦



1. 昭和21年７月８日（東北電力）
[redacted]
3. 在職中の総てが懐かしい思い出ですが，良き上司，先輩，同僚，後輩の方々に恵まれ楽しく務めさせて頂いたこと。
4. 地域繁栄への奉仕，お客さまとのふれ合いを大切に，誇りと自信をもって会社発展のため頑張って下さい。健康安全第一に。

長井営業所

高　橋　　隆





寒河江営業所　庶務課付

加　藤　辰　男

1. 昭和22年５月９日
[redacted]
3. 開発課新設と同時に職転，需要開発に全力で当り，成果を挙げたこと。
4. 健康と安全を第一に，持てる力を存分に発揮してください。



鶴岡営業所　配電課　作業係

鈴　木　　久

1. 昭和19年４月10日（東北配電）
[redacted]
3. 工員養成所卒業記念に単独電話工事を山形―米沢間で，先生と私たち５名で，雪の中苦労して完成したことが思い出されます。
4. 健康と安全第一に，人の和を大切に，明るい職場と家庭づくりに頑張って下さい。



山形支店　発変電部付

斎　藤　善三郎

1. 昭和22年５月９日（東北配電）
[redacted]
3. 良き上司，同僚に恵まれ，苦楽を共にした発変電所の自動化工事などが昨日のように思いだされます。
4. 大変お世話になりました。健康と安全に留意し，会社と自分の目標に向って頑張って下さい。



いわき営業所　配電課　配電二係

相　沢　一　典

1. 昭和22年１月１日（東北配電）
[redacted]
3. 凍土を踏みしめ，機器を巡視したこと。冷え冷えと川風の吹く放水路見巡り，行けば屋根の明るむ。
4. 「あの人はこの世の中に活きている間は真面目な生涯を送った人である」と言われる人間になること。



郡山営業所　庶務課付

佐　藤　吉　昭

1. 昭和19年４月27日（東北配電）
[redacted]
3. 発電所，変電所と転勤が多くありました。見知らぬ土地で地域の皆さまに大変お世話になったこと。
4. 「人を動かす前に己を動せ」。相手の立場を理解する心を養い，自分を常に反省することでしょう。



須賀川制御所付

鈴　木　和　雄

1. 昭和19年３月23日（東北配電）
[redacted]
3. 43年間いろいろな職場で多くの人々と知り合い，苦楽を共にし，水害，雪害等事故復旧作業にあたったこと。
4. 健康と安全に留意し，人と人との和を大切に，明るい職場と明るい家庭を築いて下さい。



いわき営業所　庶務課　庶務係

小　松　　公

1. 昭和23年６月１日（東北配電）
[redacted]
3. 36年９月の台風による管内最初の塩害事故。昨年２月と３月のベタ雪による雪害事故対応など。
4. 健康と安全を第一に，21世紀に向って頑張ってください。

1. 昭和20年11月14日（東北配電）
[redacted]
3. 55.12雪害復旧に業者共々不眠不休で従事し，地域住民の皆さまに感謝されたこと。
4. 職場の和を大切にし，明るく楽しく有意義に毎日をお過ごし下さい。また健康と安全第一で頑張って下さい。

白河営業所　配電課　作業係

海　野　　茂



1. 昭和20年１月19日（東北配電）
[redacted]
3. 終戦直後，戦災を被った久保田変電所の復旧工事で，資材も食糧も不足で苦労の連続の末，見事に工事完成したこと。
4. ご家族共々心身の健康に留意し，何事も誠意と思いやりの気持で，楽しい家庭と明るい職場作りに努めて下さい。

郡山営業所　配電課付

田　村　典　顕



1. 昭和23年１月１日（東北配電）
[redacted]
3. 39年有余の勤務を振り返ってみると，良き先輩，同僚に恵まれ，楽しく過ごしたことが懐しく思い出されます。
4. 健康管理に留意し，明るい職場と楽しい家庭を作られますよう願望いたします。

郡山営業所　地域サービス課付

尾　股　健　三



1. 昭和25年11月20日（東北配電）
[redacted]
3. 良き上司，先輩，同僚にめぐまれて過したこと。塩害，雪害等に見舞われ復旧作業に従事したこと。
4. 健康と安全を第一とし，明るい職場楽しい家庭づくりに努めて下さい。

いわき送電所　工事課

吉　田　泰　三



1. 昭和22年６月１日（日本発送電）
[redacted]
3. 会津給電指令所発足当時に，東北単独系において渇水と電源不足で，42HZ系統を維持する当直勤務に苦労した。
4. 年齢差を越えて心を通じ合う明るい職場で，身心共に健康で勤務されるよう祈ります。

会津制御所　運用課付

秦　野　敏　郎



1. 昭和26年３月１日（東北配電）
[redacted]
3. 雪の新潟から他支店へ雪害復旧応援に行き，不眠不休で復旧応援に従事し，災害もなく全員無事帰所できたこと。
4. 災害のない明るい職場づくりに努め，毎日楽しく笑顔で業務に励んでください。

三条営業所　配電課　作業係付

石　黒　精　吾



1. 昭和20年９月９日（東北配電）
[redacted]
3. 振り返ってみますと，42年間良き上司，先輩，同僚に恵まれたことが懐しい思い出となっています。
4. 健康と安全を第一にし，明るい家庭と職場作りに努めて下さい。

小出営業所　配電課　作業係付

武　藤　道　彦





新潟保修所　電気保修課

椎　谷　孝知良

1. 昭和23年11月５日（東北配電）
[redacted]
3. 新潟地震の災害復旧。
4. 健康に気をつけて頑張って下さい。



長岡営業所付

金　内　庚　助

1. 昭和22年12月15日（東北配電）
[redacted]
3. 長岡営業所時代，新潟地震の復旧資材の中継で，時間を問わず車の到着の都度呼び出され，営業所にかけつけた。
4. 激動の時代です。環境の変化に的確に対応できる柔軟な思考で会社発展のため頑張って下さい。健康第一に。



高田制御所付

佐　藤　英　雄

1. 昭和18年４月１日（日本発送電）
[redacted]
3. 良き先輩，同僚に恵まれ，すべてが楽しい想い出です。
4. 健康が第一。明るい職場，楽しい家庭が明日への活力です。



高田送電所　工事課付

宮　越　重　勝

1. 昭和23年６月10日（東北配電）
[redacted]
3. 在職40年，それぞれの勤務個所で貴重な経験をし，特に新潟地震，羽越水害等の事故復旧の任務を遂行できたこと。
4. 安全はすべてに最優先する。東北電力の益々の発展のため，常に問題意識をもち日常業務に努めて下さい。



高田制御所付

田地野　一　郎

1. 昭和23年11月４日（日本発送電）
[redacted]
3. 何もかも不足の時代であったが，入社当時，発電所勤務の毎日が楽しく，先輩，同僚の方々を懐しく思い出します。
4. 健康と安全に留意し，明るい活力ある職場で精一杯の御活躍を祈ります。



三条制御所付

久　住　　功

1. 昭和21年４月１日（東北配電）
[redacted]
3. 41年の間，新潟，長岡，三条，それぞれの職場で失敗したこと，楽しかったと，みんな懐かしい思い出です。
4. 健康は歩くことが第一です。ポケットから手を出し，正しい姿勢で歩きましょう。健康に留意して，21世紀に向って頑張って下さい。



新発田営業所　地域サービス課付

梅　川　禮　三

1. 昭和22年12月15日（東北配電）
[redacted]
3. 羽越水害で出張所の応援にかけつけた帰り道，胸までつかって夜道を歩いたことが一番の思い出です。
4. 何ごとにも陰ひなたなく誠意をもって，また人の和を大切にして自分の仕事に懸命にとり組んで下さい。

1. 昭和22年12月15日（東北配電）
[redacted]
3. 販売活動・集金率100%・口振拡大など苦労して完遂し「達成の喜び」をみんなで噛みしめたこと。
4. 価値観の多様化・高度化・個性化，激変の社会，不透明時代に着実に研鑽し変化適応能力，実力をつけて下さい。

新潟支店付
坪　崎　正　一



1. 昭和21年9月12日（日本発送電）
[redacted]
3. 良き上司，先輩，同僚に恵まれ，苦楽を共にした41年余，長いようで短く，そのすべてが懐しい思い出です。
4. 身心の健康と安全を第一に，明るい活力ある職場づくりと地域協調に努めて下さい。

新潟制御所付
猪　俣　忠　栄



1. 昭和35年5月1日（東北電力）
[redacted]
3. 永い間，良き上司，先輩に恵まれてたのしく勤めることができたこと
4. 健康がすべて財産です。身体に気をつけて，毎日を大切に過ごしてください。

八戸火力発電所　庶務課
金　浜　文　夫



1. 昭和38年4月1日（東北電力）
[redacted]
3. 良き上司，良き先輩，同僚に恵まれて楽しく勤務できたことすべてが懐しい思い出です。
4. 大変お世話になりました。健康と安全を第一に，明るい職場楽しい家庭を築いて下さい。

八戸水力発電所　発電課
赤　坂　慶　隆





当社が提供するテレビ・ラジオ番組

テレビ

心にふれる話題を集めてさわやかに！



12月の予定

12月13日	「'88吉か凶か」 扇谷正造（評論家）
12月20日	「酒と日本人」 高須俊明（日本大学教授）
12月27日	「嫉妬の時代」 岸田　秀（和光大学教授）
1月3日	「五十鈴十種」 山田五十鈴（女優）
1月10日	「しっかりしろ日本人」 会田雄次（京都大学名誉教授）

毎週日曜日

青森放送	午前	10：00～10：30
岩手放送	午前	10：00～10：30
秋田テレビ	午前	10：00～10：30
仙台放送	午前	10：00～10：30
山形放送	午前	10：00～10：30
福島テレビ	午前	10：00～10：30
新潟放送	午前	10：00～10：30

さわやかネットワーク



あなたの暮らしにプラス・ワン「久里千春のさわやかネットワーク」は，新潟を含む東北7県のローカル・ネットワーク番組です。月曜から金曜のお昼前のひととき，家庭の主婦の生き生きとした話題や，一味違うくらしの情報を司会の久里千春さんが明るく伝えようという15分番組です。

経済評論家・高原須美子さんのコーナー
（木曜日）



12月10日	第三世代の女性誌
12月17日	高齢化と中間施設
12月24日	'87東北経済総決算
1月7日	'88今年の暮らしは？

毎週月曜日⇨金曜日・15分番組

青森テレビ	11時30分～11時45分
テレビ岩手	11時45分～12時00分
秋田放送	11時10分～11時25分
ミヤギテレビ	11時45分～12時00分
山形テレビ	10時40分～10時55分
福島中央テレビ	11時45分～12時00分
テレビ新潟	10時00分～10時15分

AM ラジオ FM

草柳文恵のお元気ですか



毎週月曜日⇨金曜日・5分番組

青森放送	10時10分～10時15分
岩手放送	9時45分～9時50分
秋田放送	9時25分～9時30分
東北放送	9時50分～9時55分
山形放送	11時45分～11時50分
ラジオ福島	10時45分～10時50分
新潟放送	10時40分～10時45分

●森山良子のふれあいアフタヌーン

毎週土曜日

エフエム青森	12：00～12：30
エフエム岩手	12：00～12：30
エフエム秋田	12：00～12：30
エフエム仙台	12：00～12：30

●黒崎昭二のシャンソンをあなたに

毎週土曜日　エフエム秋田　18：00～18：30

編集後記

12月はじめ，突如日本列島は寒波に見舞われ，首都圏にも降雪があった。

めずらしい雪に子供たちがはしゃぐ反面，交通事故や転倒事故などがマスコミを通じて報じられていた。

北国に住むわれわれにとって，「あのくらいの雪で…」と思うことも，東京では『予測しなかった』できごととして多くの災害をもたらすのだ。

電気事業をめぐる環境は大きく変化を続けており，今後，さらに未知の『新時代』へと突入していく。

この来たるべき時代を『東京の雪』としないためにも，変化に敏感に，そして柔軟に対応していかなければならない。

年の瀬を迎え，今年も仙台の街に光のベージェントがお目見えする。

昨年，けやき並木を美しく彩った30万個の電球，その一灯一灯が仙台市民の想いを込めた募金の光である。そして，今年はさらに45万個へと大幅にその数が増えるのだという。

さらに大きく拡がった光の並木が，きっとわれわれを温かく迎えてくれることだろう。　（齋子）



「耳を澄ますと歴史の囁やきが聞こえる」

三条市

三条市の嵐南の一角、緑の松林に囲まれて一際高く聳えたつ大伽藍が本成寺です。

法華宗陣門流の総本山として、三万坪の広大な境内には七堂伽藍が荘麗を極め、老松古杉鬱蒼として閑寂の気迫るものがあります。

十個寺を数える塔頭、全国に百八十二の末寺を持つ北陸有数の名刹とされています。

本成寺は今から約七百年程前に日蓮聖人の法孫、日印上人によって建立されました。

越後への布教のため、白牛の背に経典を戴せて鎌倉を旅立った日印上人は、白牛がひざまついた場所を霊地とし、布教の拠点にしようと考えられました。三条の地にたどりついた時、白牛が突然ひざまつきそこから清水がわき出、青い蓮華の花が咲き始めたので、上人はこの不思議な現象に感激し、聖地として布教の地点に定められたとのこと。本成寺の白牛伝説のなごりは、本山の処々にいくつか残されております。

また、全国に末寺を持つ本山だけに、テレビでおなじみの遠山金四郎や大久保彦左衛門の墓など意外な人の墓があります。

毎年二月三日の「節分鬼おどり」は、古事にならい五色の衣裳に身を包んだ鬼を年男が豆を投げて退散させ、一面厳粛ではあるが極めて素朴な行事で、平和と安全を祈ります。

毎年数千人の参詣者で賑わう「節分鬼おどり」に皆さま是非おでかけ下さい。お待ち申し上げております。

本成寺を訪れると十一月の境内は晩秋のやわらかな陽ざしをうけ、山門わきのけやきの落葉が冬の訪れを伝えておりました。

●今月の道案内

三条営業所
古寺光代

発行所　東北電力株式会社情報課
昭和六十二年十二月十日発行